

2024年3月 福祉医療機構

精神科病院における 地域移行の実践とその課題

社会福祉法人巣立ち会

田尾有樹子

<https://sudachi-kai.or.jp>

自己紹介

- 1956年生まれ
- 1978年大学(上智大学教育学部心理学専攻)卒業後、調布のK病院(精神科単科)に就職(2003年退職)
- 1992年任意団体巣立ち会を設立 巣立ちホームを開設
- 2002年社会福祉法人巣立ち会を設立
- 2010年理事長就任 現在に至る

今日の話

- 病院の経験
- 精神医療の現状
- 巣立ち会の歴史と活動
 - 地域で生きることの支援
- 地域移行の実践とその課題

病院の経験から

- 入職最初の印象が時間がゆっくり流れている場所
- 患者さんが教師であり、私の伴走者だという実感
- 若いうちから経営に関する認識を持っていたか？

やりたいことの企画の提案の時に必ず、収益の計算をしていた

作業療法・デイケア・ナイトケア・訪問看護・入院患者の確保

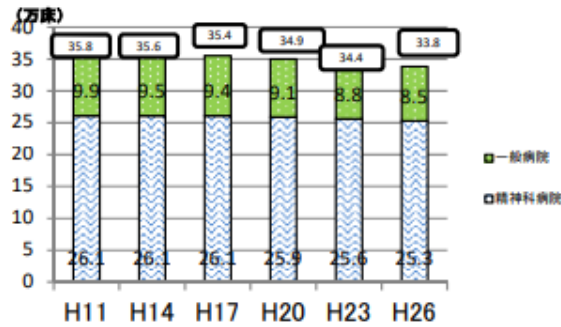
- 誰のための仕事か？
- どこから給料をもらうか？

精神医療の現状

精神科医療の現状について

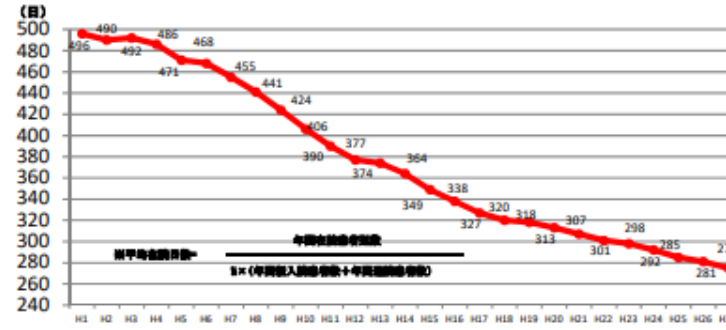
- **精神病床数は過去15年間で約35.8万床→33.8万床(△約2万床)に減少。**(全病床数(約168万床)の約2割)。
他方で**国際的には日本の病床数は非常に多い。**
- 精神病床の**平均在院日数は274.7日**(全病床:平均在院日数29.1日)
過去10年間で精神病床の平均在院日数は、52.5日短縮。
他方で**国際的には日本の平均在院日数は非常に長い。**
- 近年の**新規入院患者の入院期間は短縮傾向**にあり、**約9割が1年以内に退院。**
- 精神病床からの退院患者の再入院率は、退院後6ヶ月時点が約30%、1年時点が約37%。

精神病床の推移



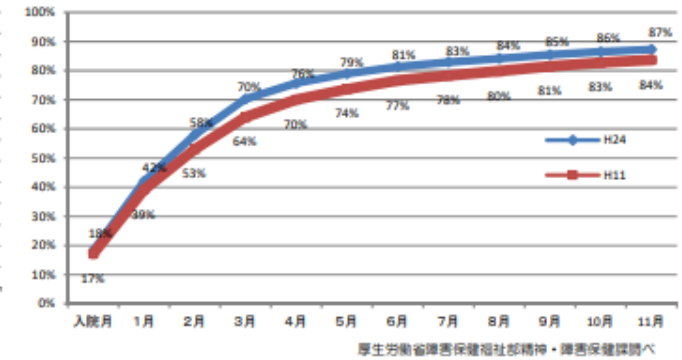
資料：厚生労働省「医療施設調査」「病院報告」より
厚生労働省障害保健福祉部で作成

平均在院日数の推移



資料：厚生労働省「病院報告」より
厚生労働省障害保健福祉部で作成

精神病床における退院曲線の年次推移



厚生労働省障害保健福祉部精神・障害保健課調べ

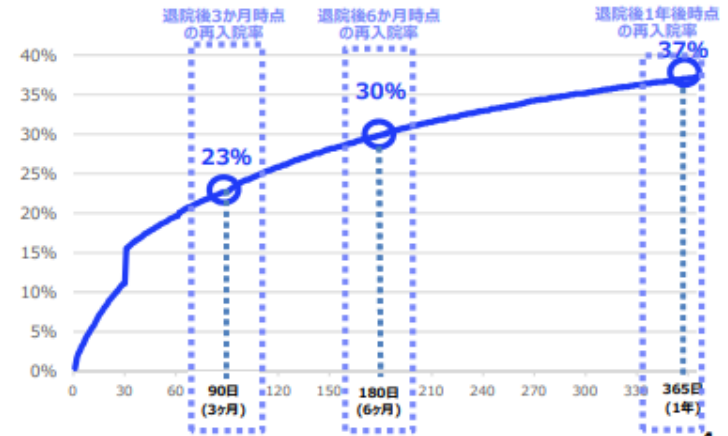
精神病床数(※)と平均在院日数推移(諸外国との比較)

	2012年 精神病床数 (床/千人)	2014年 平均在院日数(日)
ベルギー	1.7	10.1
フランス	0.9	5.8
ドイツ	1.3	24.2
イタリア	0.1	13.9
日本	2.7	285
韓国	0.9	124.9
スイス	0.9	29.4
イギリス	0.5	42.3

※各国により定義が異なる

資料：OECD Health Data 2015

再入院率のグラフ



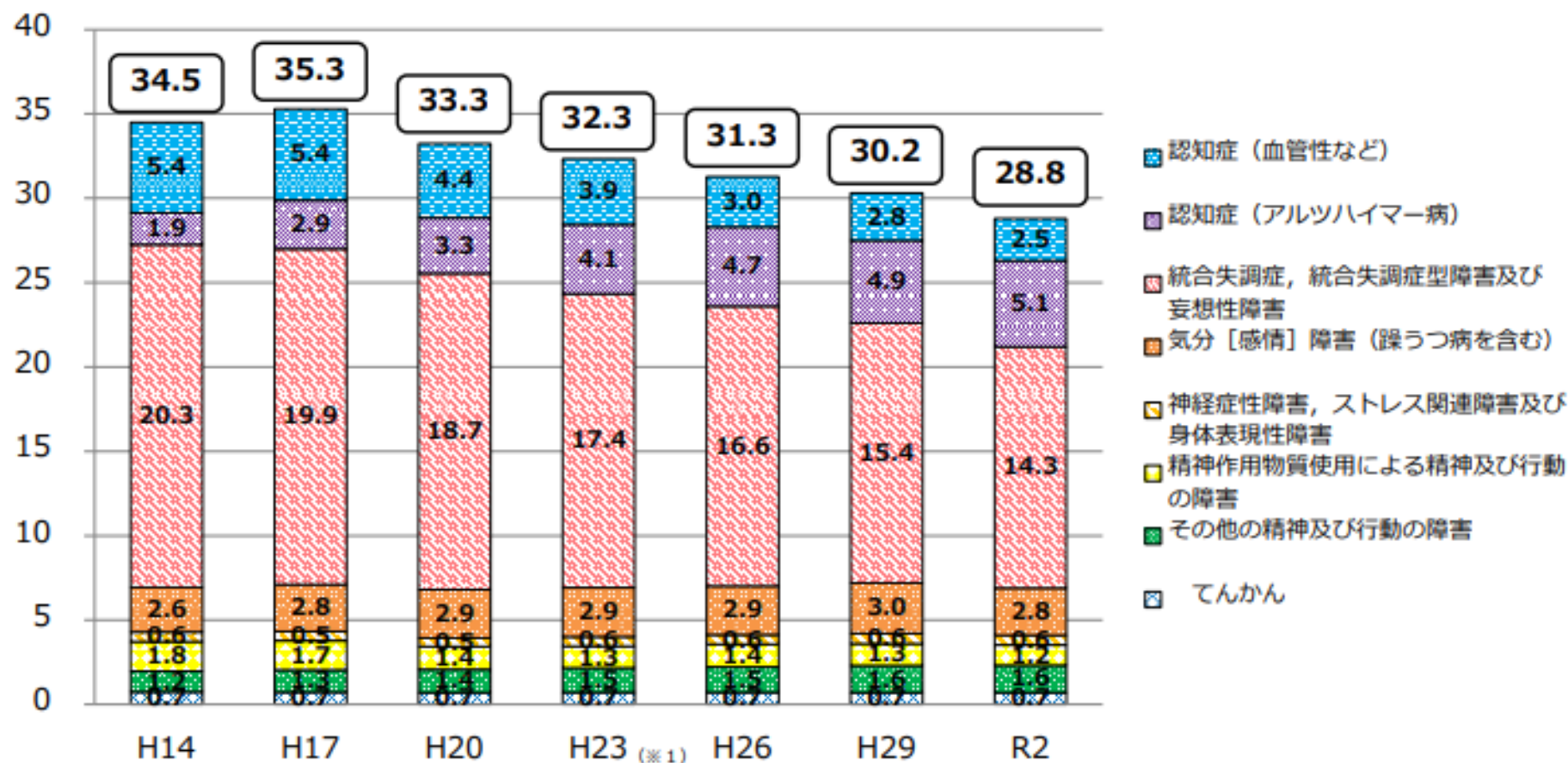
※NDSOを活用して計算

※平成26年3月退院患者(n=24,781)を対象にして再入院曲線を作成

精神疾患を有する入院患者数の推移（疾病別内訳）

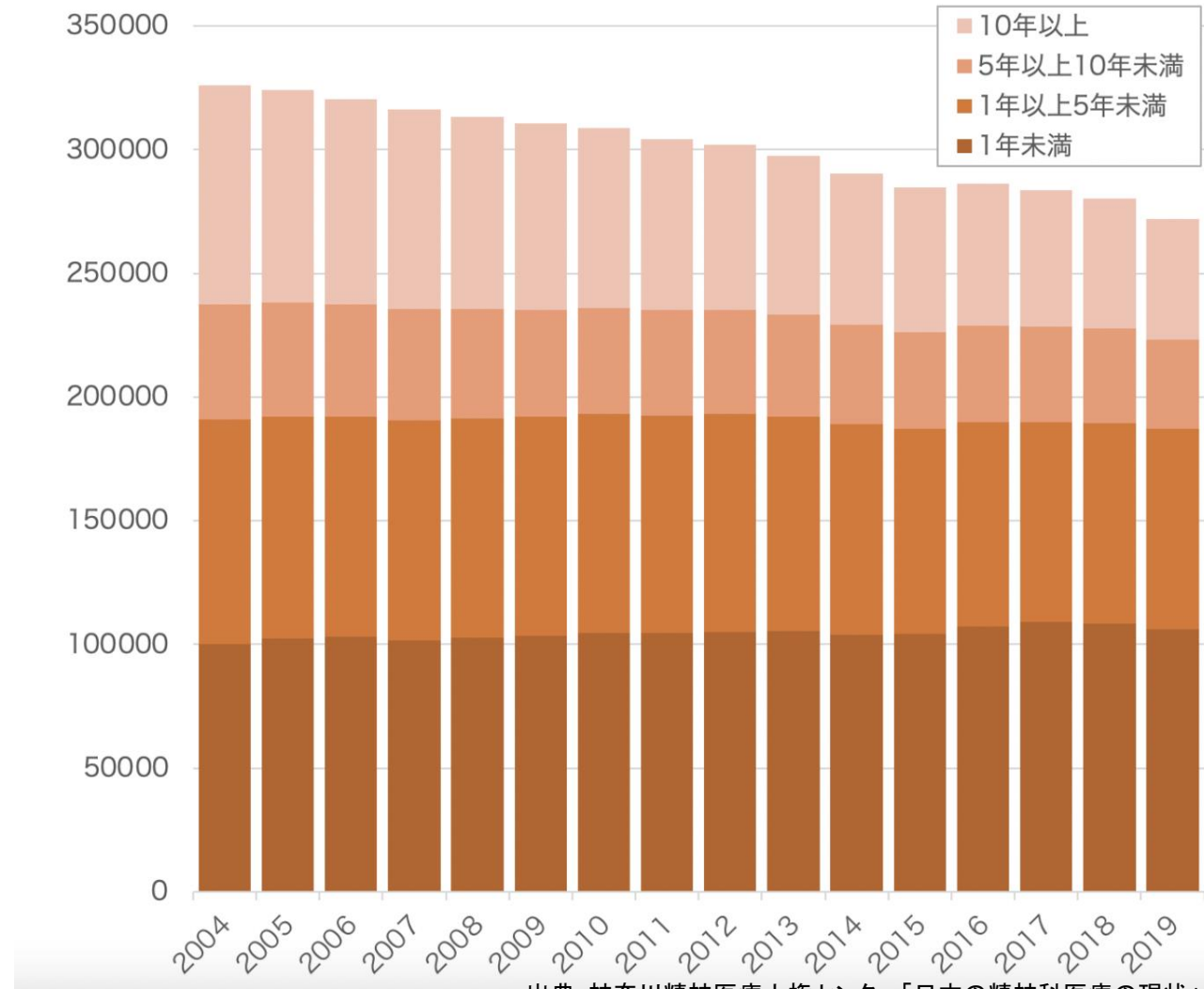
- 精神疾患を有する入院患者数は、約28.8万人。
- 疾患別では、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が最も多いが、減少傾向。

（単位：万人）



※1）H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている。

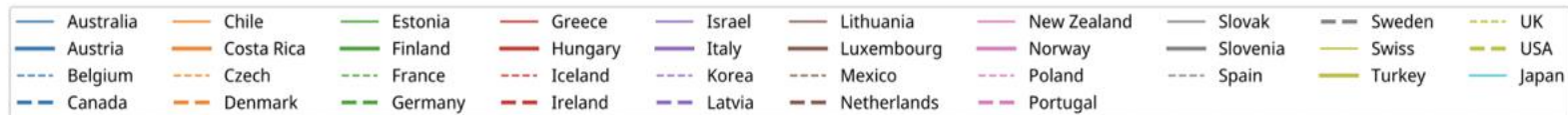
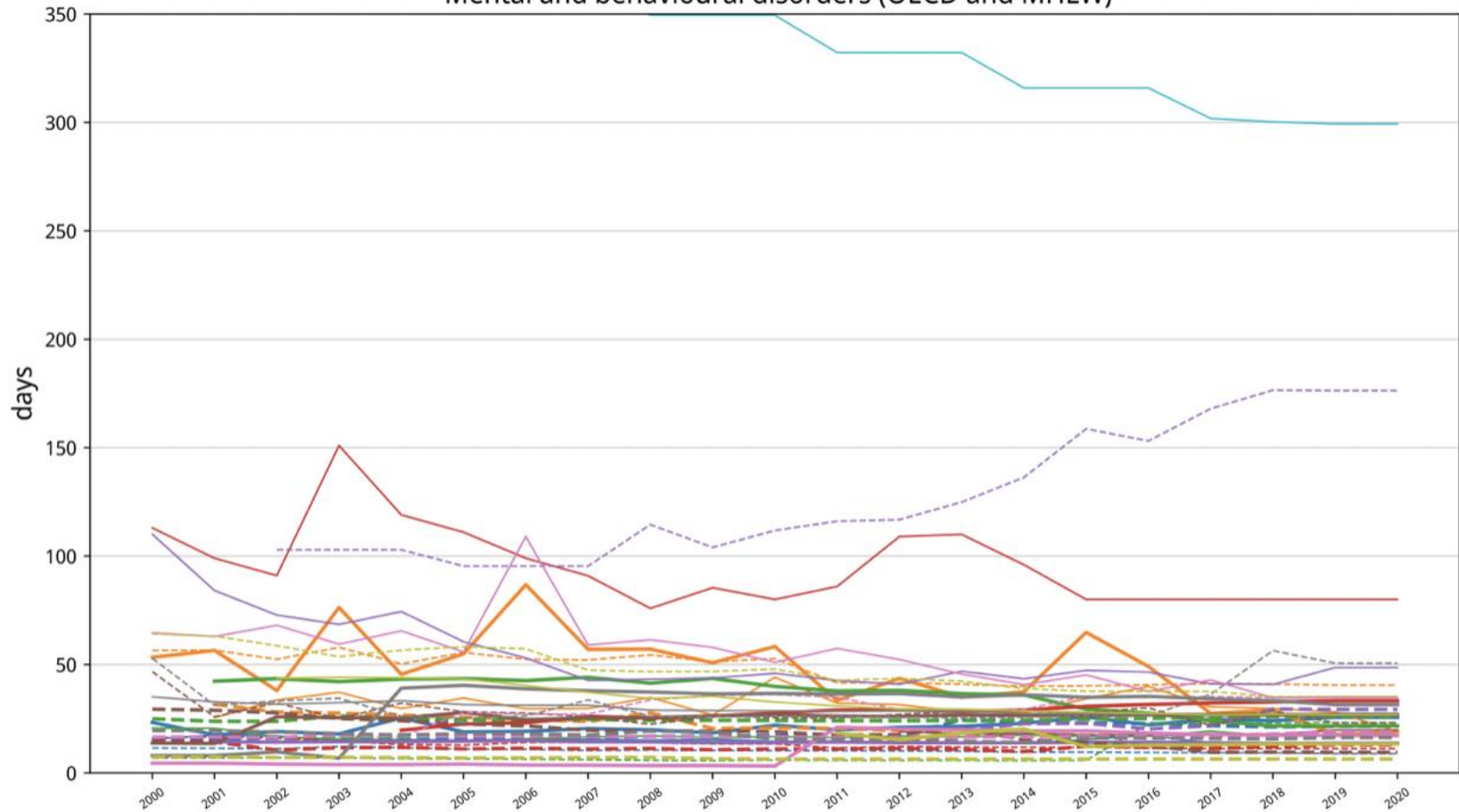
入院期間の推移



出典: 神奈川精神医療人権センター「日本の精神科医療の現状」

入院期間：国際的な比較

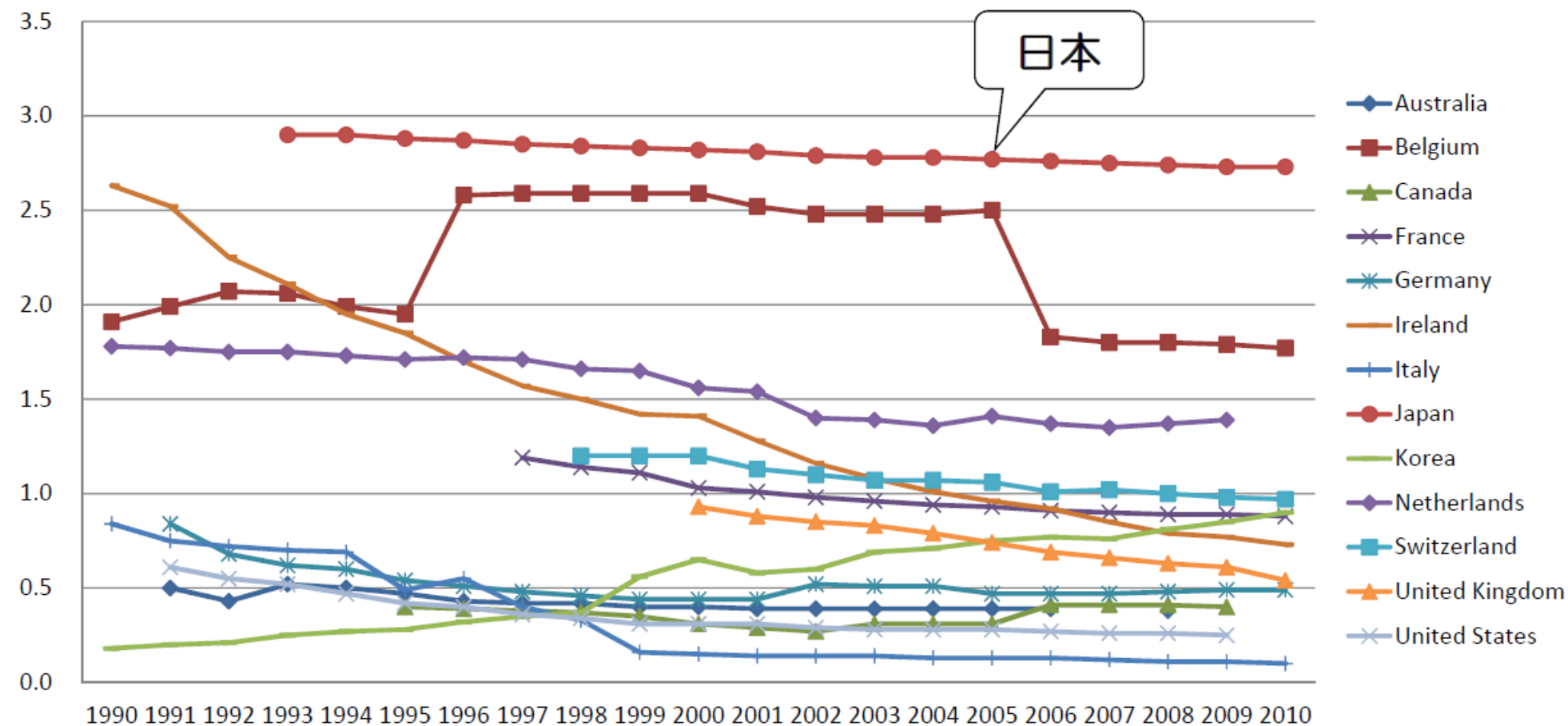
Hospital average length of stay,
Mental and behavioural disorders (OECD and MHLW)



出典: https://commons.wikimedia.org/wiki/File:Mental_Hospital_average_stay_length_in_OECD.svg

精神病床数※(諸外国との比較)

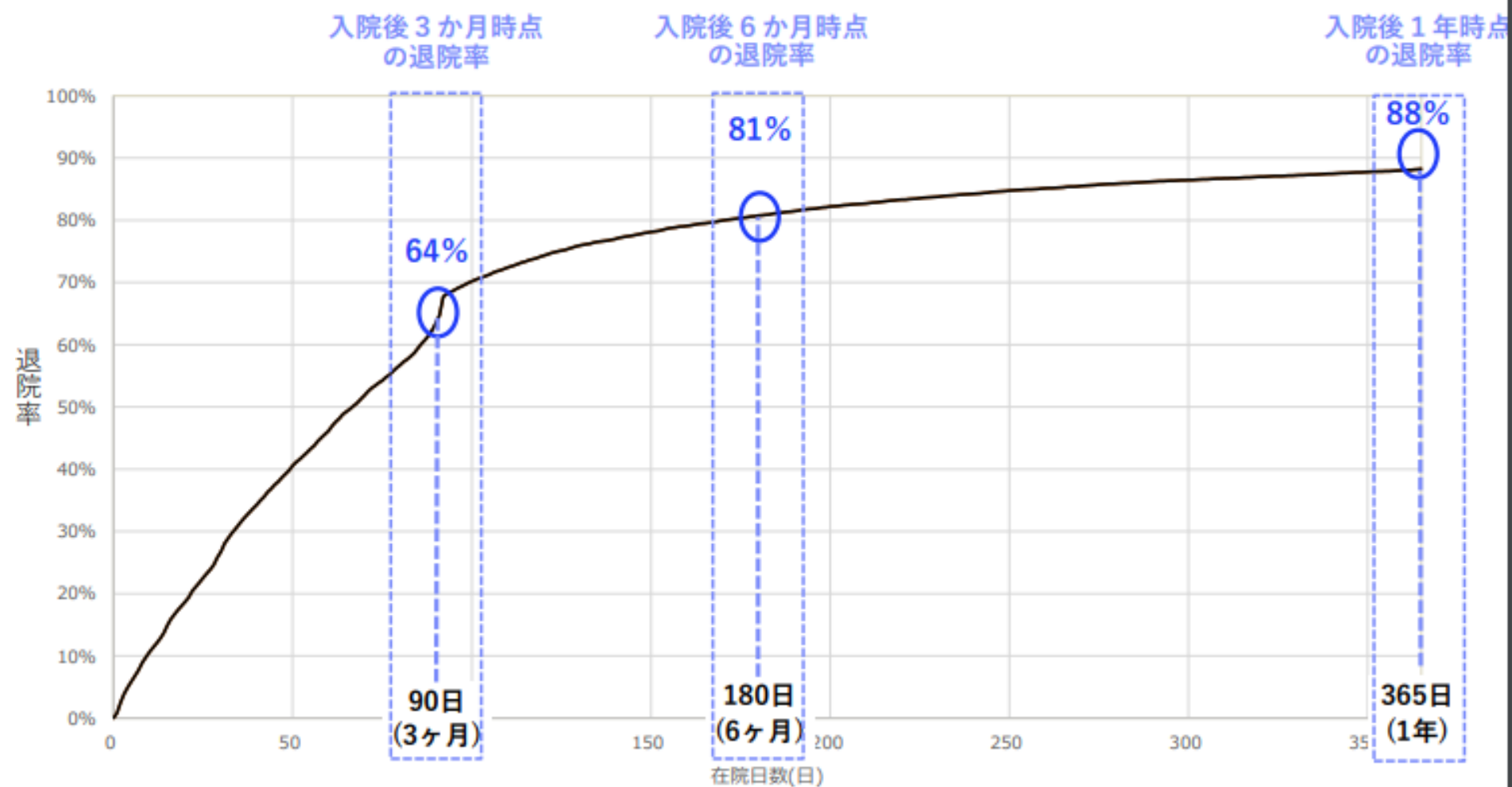
単位:床/千人



※各国により定義が異なる

資料: OECD Health Data 2012

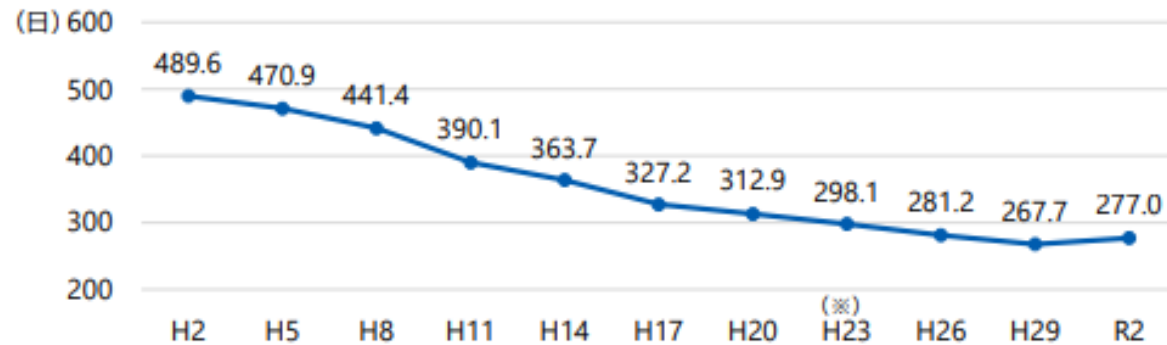
平成29年3月における精神病床への入院患者の退院率について



精神病床における平均在院日数と再入院率

- 精神病床における平均在院日数は、減少傾向。
- 精神病床に入院してから1年以内に退院した患者のうち、30%以上が、1年以内に再入院している。

■ 精神病床における平均在院日数の推移

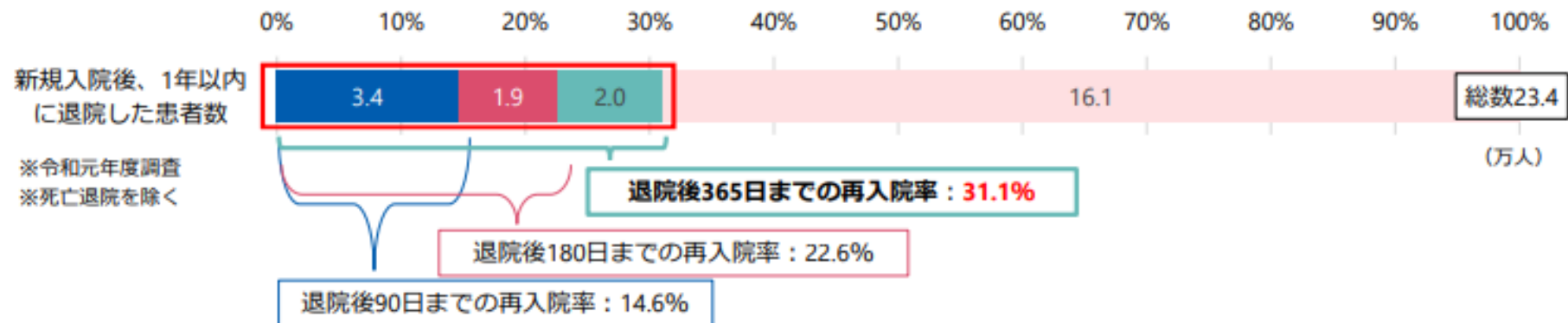


平均在院日数の算出方法

$$\frac{\text{年間在院患者延べ数}}{1/2 \times (\text{年間新入院患者数} + \text{年間退院患者数})}$$

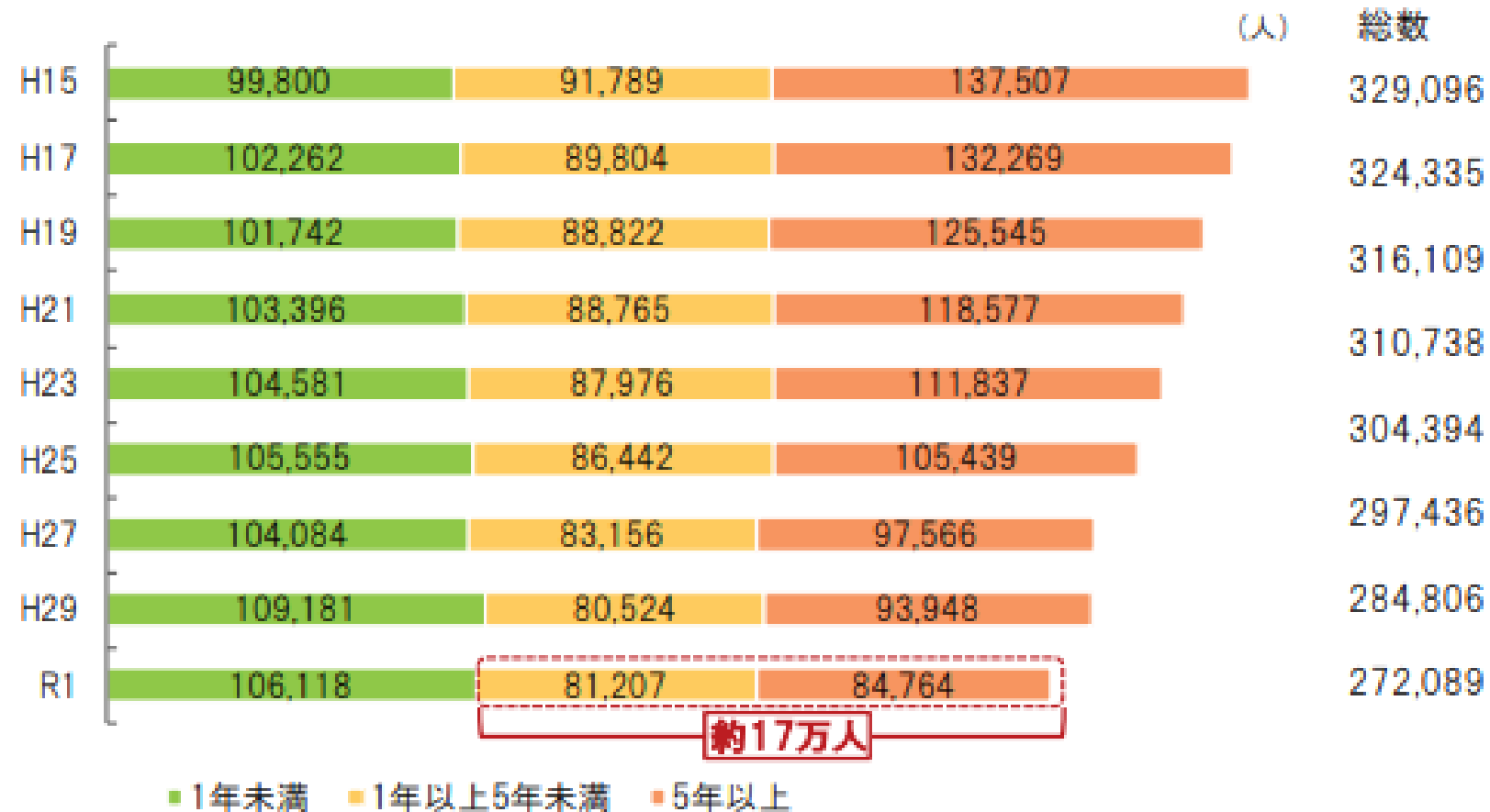
※ 平成23年では岩手県と宮城県、福島県の一部、平成28年では熊本県の一部、平成30年では広島県の一部を除いている。

■ 精神病床に入院してから1年以内に退院した患者における退院後1年までの再入院率



出典：(上図)厚生労働省「病院報告」より障害保健福祉部精神・障害保健課で作成
(下図)令和5年度厚生労働行政推進調査事業費補助金「良質な精神保健医療福祉の提供体制構築を目指したモニタリング研究」(研究代表者：西大輔) 提出資料より作成

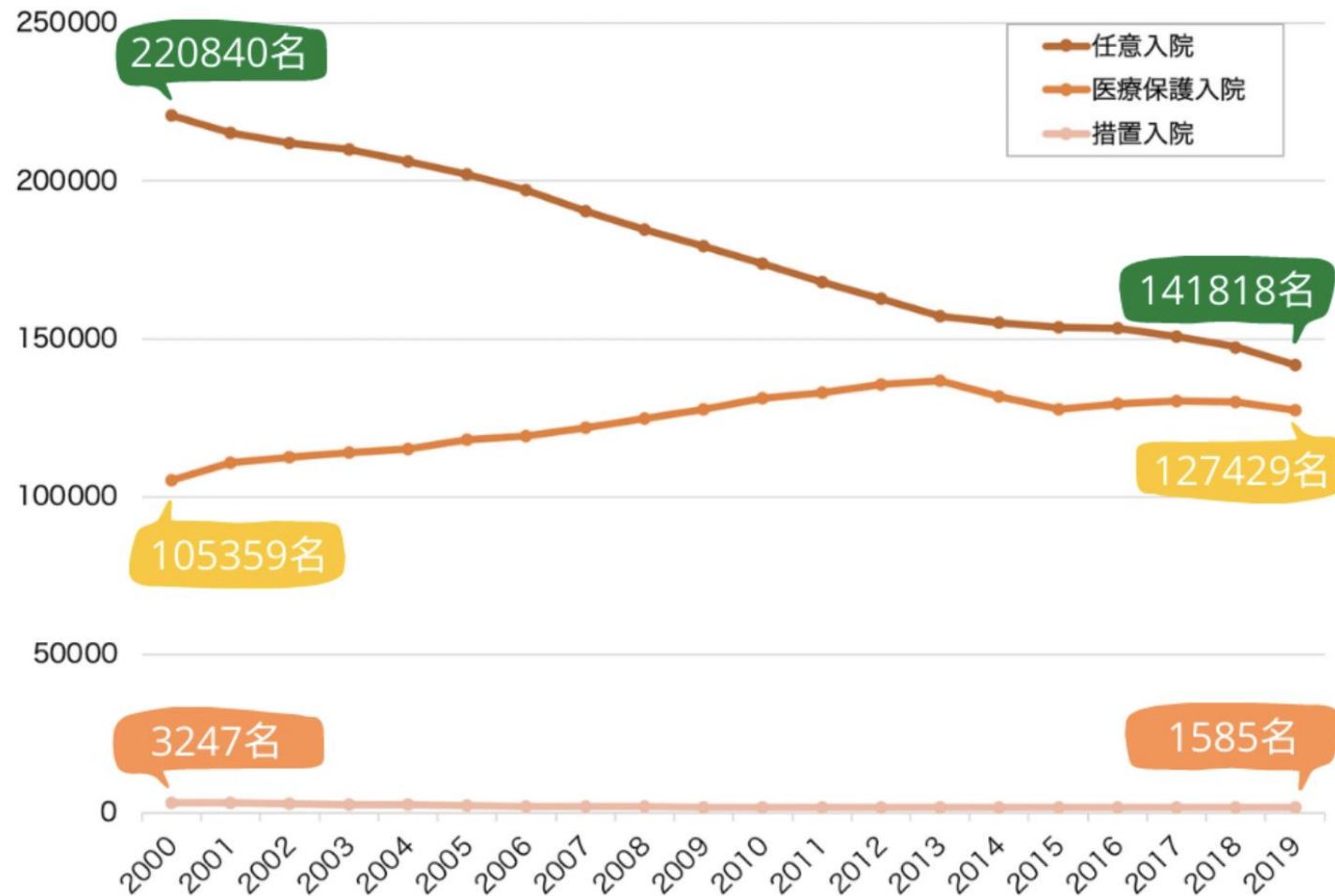
図表9：精神病床における在院期間別入院患者数（各年6月30日時点での入院）



※毎年公表される値であるが、便宜上、平成15年～令和元年は隔年で掲載している

出典：「精神保健福祉資料」より作成

入院形態別

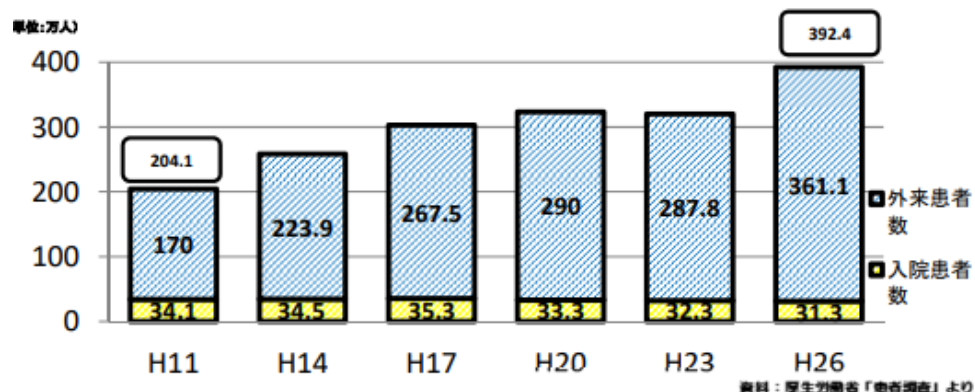


精神科医療の現状について

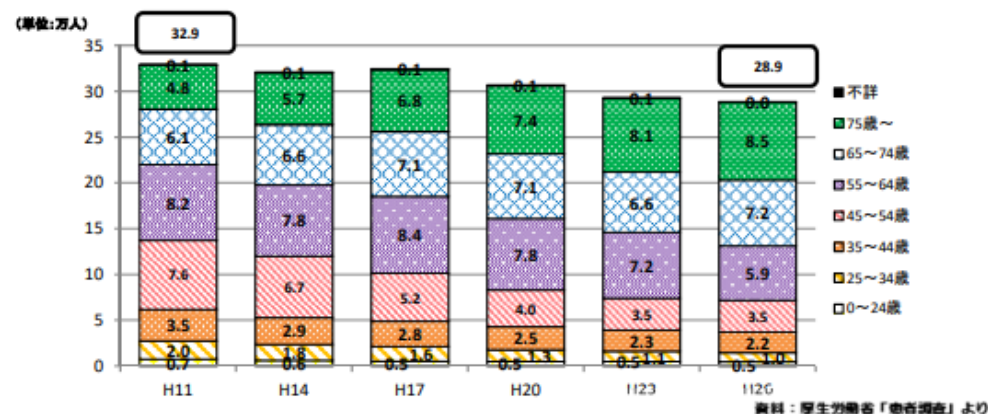
1. 患者数、病床数、平均在院日数等

- 精神疾患を有する総患者数は約392.4万人【入院:約31.3万人(※)、外来:約361.1万人】
 ※ うち精神病床における入院患者数は約28.9万人
- 精神病床の入院患者数は過去15年間で減少傾向(約32.9万人→28.9万人【△約4万人】)
 一方、外来患者数は2倍以上に増加。(認知症や気分障害(うつ病など)が特に増加)
- 入院形態別の在院患者数の推移では、任意入院、措置入院は減少する一方、医療保護入院は増加。ただし、医療保護入院についてもH26年度は前年度比4,756人減少。

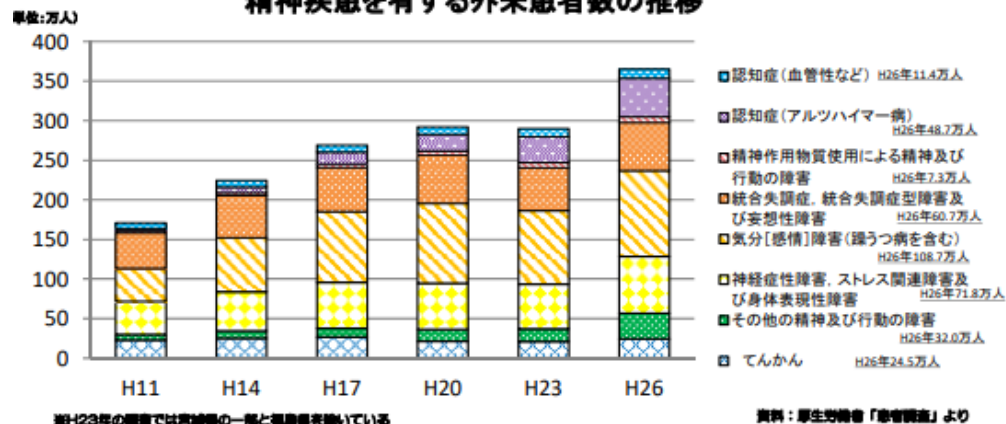
精神疾患を有する総患者数の推移



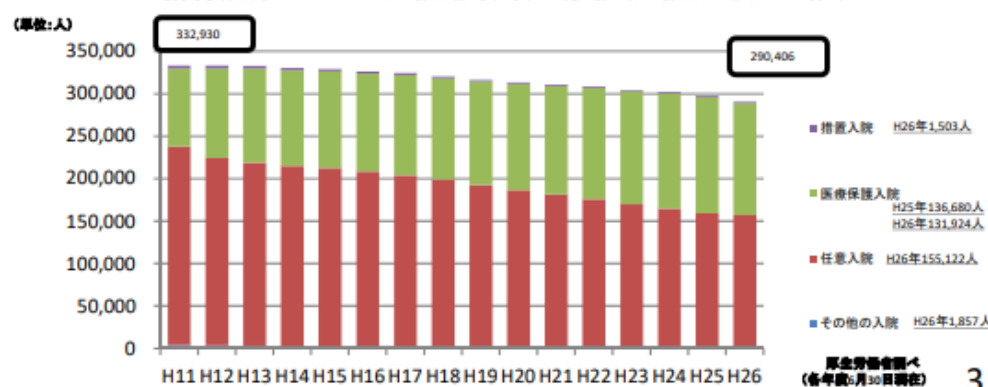
精神病床における入院患者数の推移(年齢階級別内訳)



精神疾患を有する外来患者数の推移



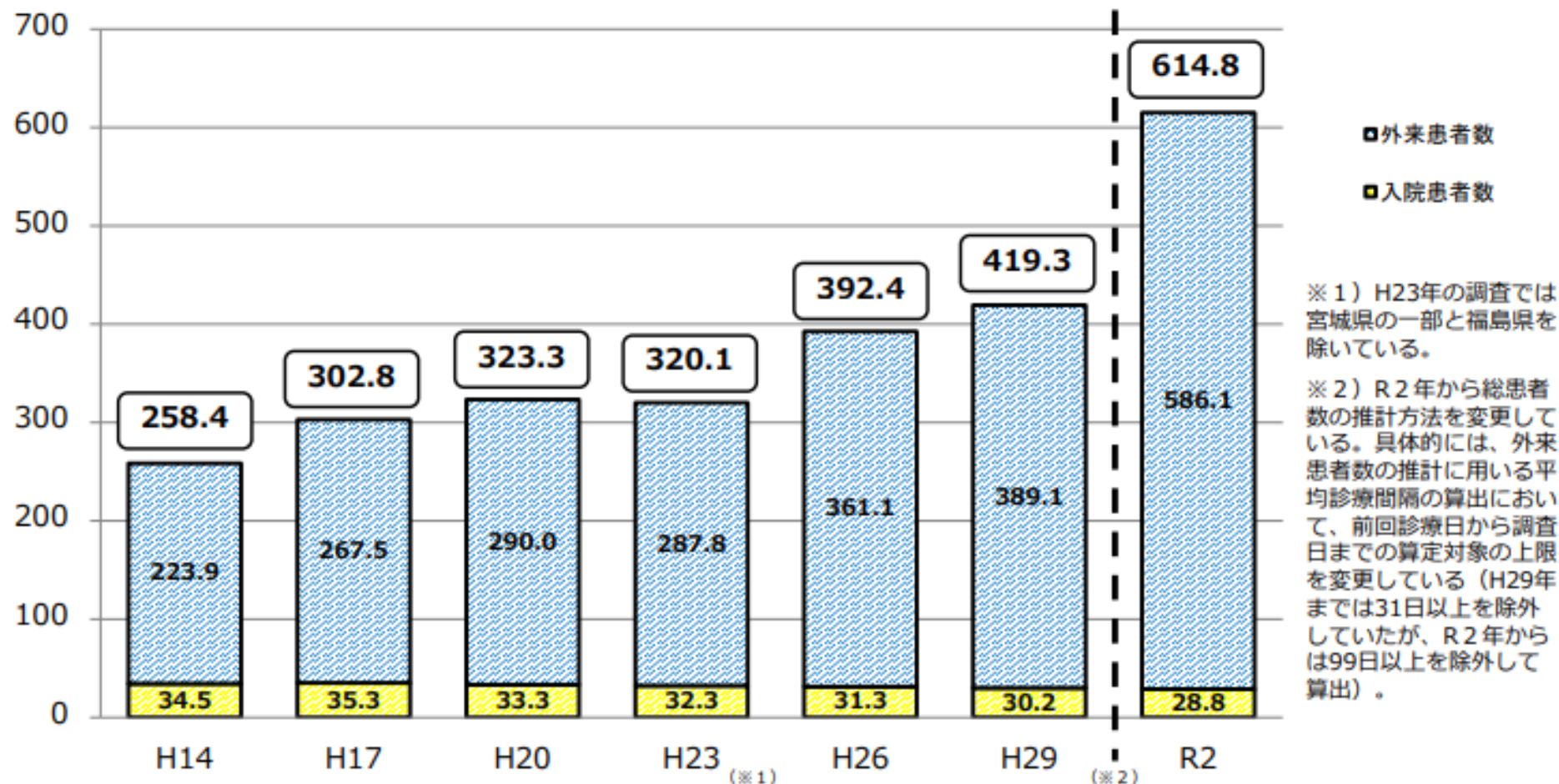
精神病床における入院患者数の推移(入院形態別内訳)



精神疾患を有する総患者数の推移

○ 精神疾患を有する総患者数は、約614.8万人（入院：約28.8万人、外来：約586.1万人）。

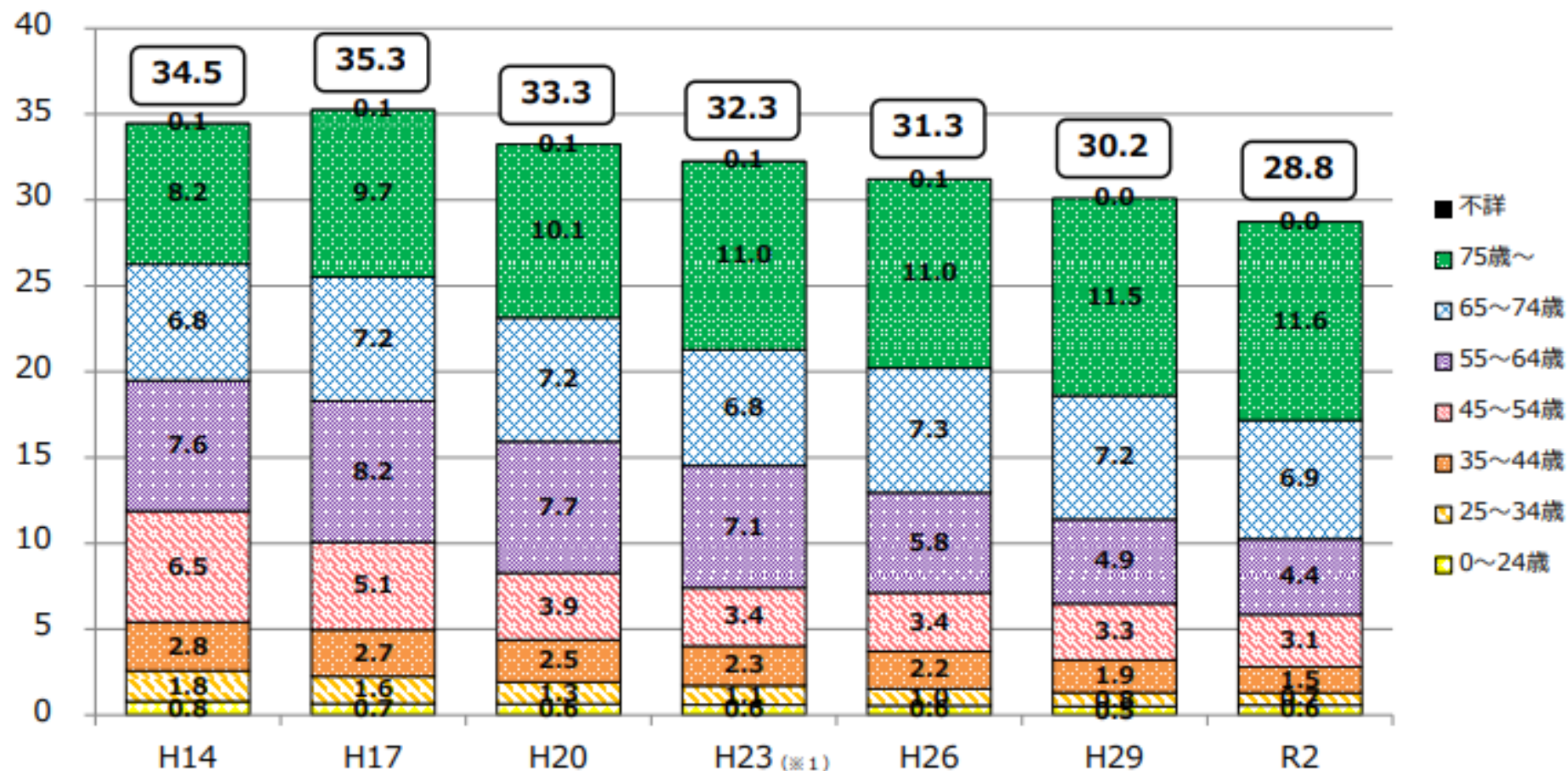
（単位：万人）



精神疾患を有する入院患者数の推移（年齢階級別内訳）

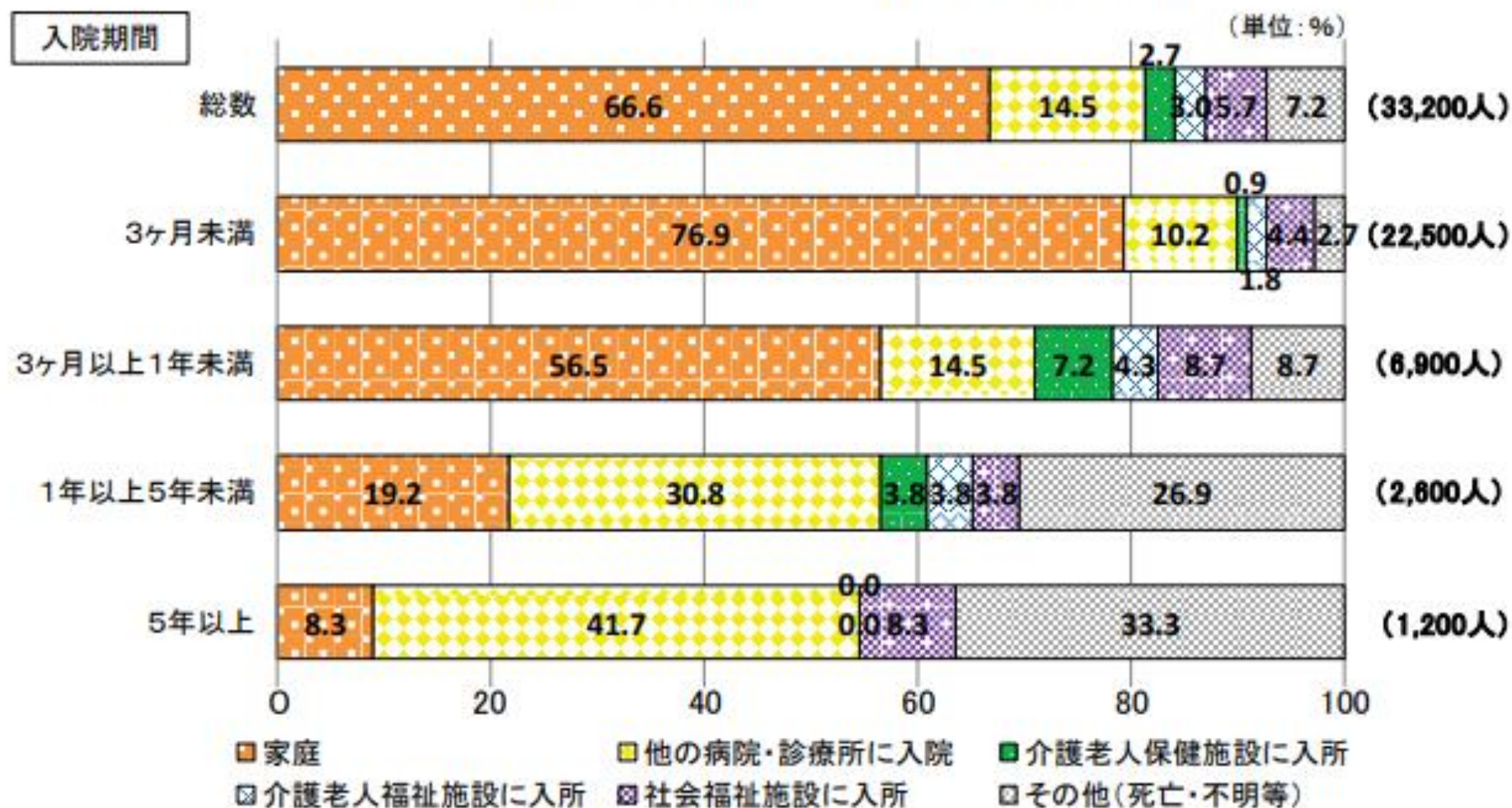
○ 精神疾患を有する入院患者のうち、65歳以上が最も多く、約18.5万人（約64%）。

（単位：万人）



※ 1) H23年の調査では宮城県の一部と福島県を除いている。

図表 11：平成 29 年精神病床退院患者の退院後の行先

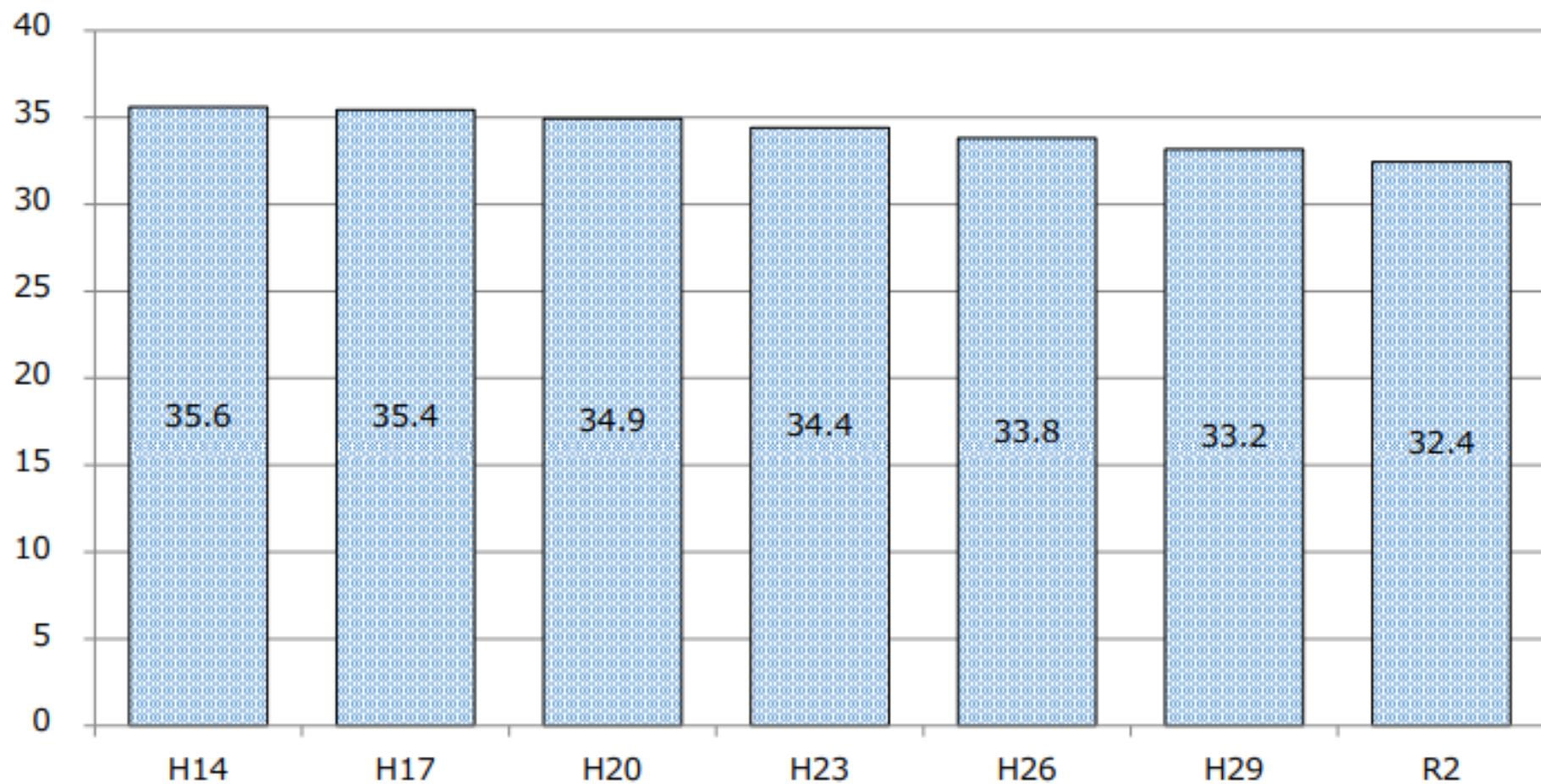


出典：厚生労働省「患者調査」より作成

精神病床数の推移

○ 精神病床数は、約32.4万床であり、減少傾向。

(単位：万床)

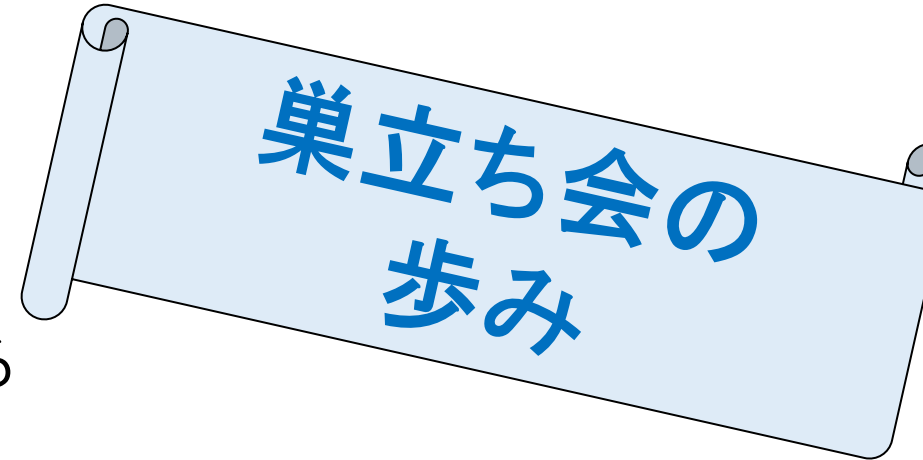


どうやって
重度かつ慢性患者が
作られるか？

**必要なのは地域移行や退院
支援ではなく、
精神病床の削減
ではないかと思っている**

巢立ち会の歴史と活動

- 1992.6 三鷹市で巣立ちホームの事業を開始
- 1993.4 巣立ち共同作業所・巣立ちホームが正式に認可される
- 1996.4 巣立ち工房・巣立ちホーム調布が正式に認可される
- 1998.7 巣立ちホーム調布第2が正式に認可される
- 2000.8 調布市にてこひつじ舎事業開始
- 2002.10 巣立ち会 社会福祉法人格取得
- 2003.1 巣立ちホーム調布第3 事業開始
- 2003.4 こひつじ舎・巣立ちホーム調布第3が正式に認可される
- 2005.4 巣立ちホーム調布第4 事業開始
- 2005.6 三鷹市精神障がい者地域自立支援事業(ピアサポート事業)を受託
- 2005.8 東京都H17年度精神障害者退院促進支援モデル事業を受託
- 2005.10 巣立ちホーム三鷹第2 事業開始
- 2006.3 巣立ちホーム調布第5 事業開始
- 2006.10 巣立ちホーム調布第6 事業開始／8か所のグループホームを障害者自立支援法のグループホームに移行
- 2007.4 3か所の通所事業を障害者自立支援法の就労継続支援B型事業所に移行
- 2008.7 指定特定・一般相談支援事業「野の花」事業開始
- 2009.2 うつ病復職支援ルポゼ立ち上げ(こひつじ舎内)



- 2009.6 早期介入・早期支援ユースメンタルサポートCOLOR立ち上げ
- 2011.9 巣立ち風新築・移転
- 2012.9 シンフォニー(自立訓練・ルポゼ、COLORを移転)新築・事業開始
- 2013.4 リカバリー・カレッジ開講(ピアサポート事業)
- 2014.10 こひつじ舎新築・移転
- 2016.3 巣立ち工房移転
- 2016.4 シンフォニーにて就労移行支援サービス開始
- 2017.10 グループホーム8か所を巣立ちホーム(一事業所)にまとめる
- 2018.4 自立生活援助を開始
- 2018.4 三鷹市の生活福祉課の委託で「居場所事業」(りんくる)開始
- 2018.8 就労定着支援開始
- 2019.4 発達障害の居場所づくり(福祉医療機構2年間)
- 2020.8 巣立ち風増築
- 2021.11 サザン竣工 就労移行支援・自立訓練開設
- 2021.12 訪問介護・居宅介護事業所 開設(光)
- 2022.4 学生等の若者に対するシームレスな学業・生活支援(福祉医療機構)
- 2022.4 狛江若者相談・狛江障害者雇用の職員相談
- 2024.12 日中サービス支援型グループホーム(仮称MUGEN)竣工予定
- 202?.9 精神保健福祉士養成施設(通信教育)開設予定

巣立ち会事業の全体図

就労継続支援B型・自立訓練・就労移行

～日中活動～

巣立ち工房

就労継続支援B型

巣立ち風

就労継続支援B型
自立訓練

こひつじ舎

就労継続支援B型

シンフォニー

就労移行支援
自立訓練

就労定着支援

サザン

就労移行支援
自立訓練

その他の事業

相談支援事業 野の花 自立生活援助

三鷹市 ピアサポート事業 (リカバリーカレッジ) 委託

精神障害者地域移行体制整備支援事業

生活保護受給者居場所づくり 委託 委託

自殺対策事業 補助金

子ども食堂 三鷹・調布 補助金

狛江若者相談 委託

狛江職員課相談 委託

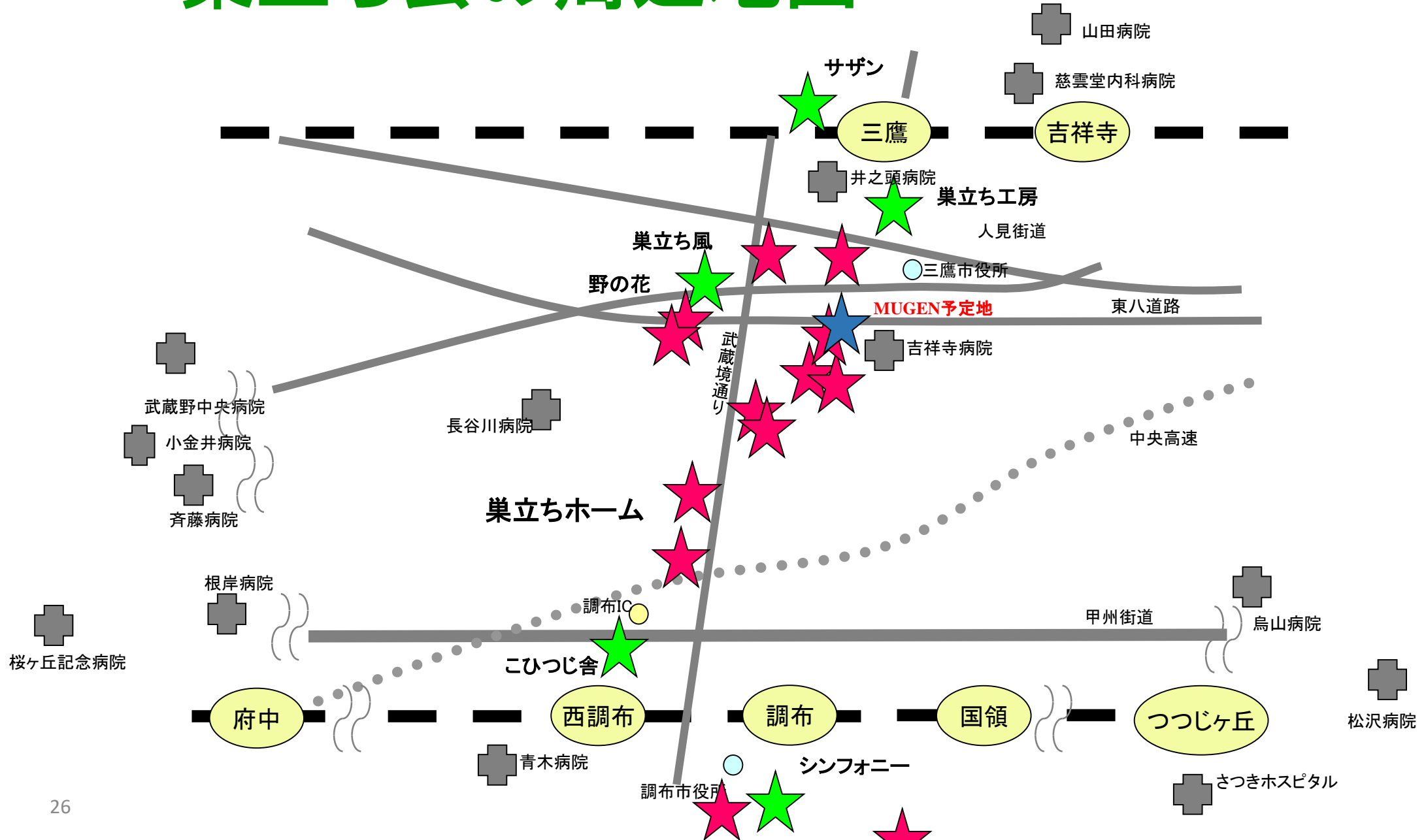
グループホーム

～居住支援～

83居室 12ユニット

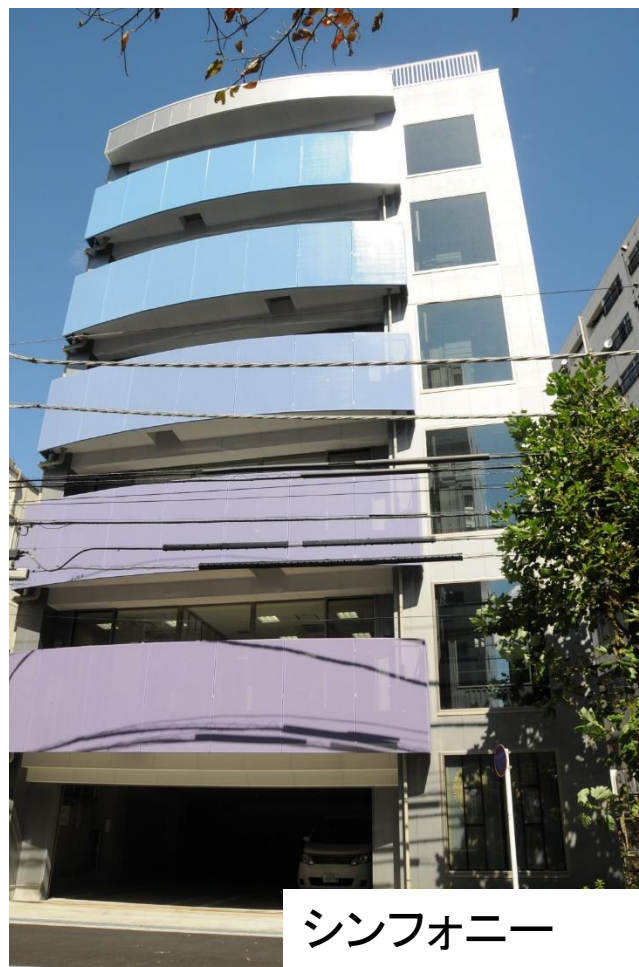
ショートステイ

巣立ち会の周辺地図





巣立ち風



シンフォニー



サザン



こひつじ舎



白樺荘



ル・ベージュ



柿ノ木ハイツ



スウィートホーム



もくれん



コスモス



シェアリングハウス



パークハイツ



ウオームハート



MUGEN 日中サービス支援型グループホーム



巣立ち会の通所事業所

2024. 2 現在

名称	定員	利用者	体験利用者	合計	平均年齢	生保受給率
巣立ち風	60名	139名	12名	148名	55.4歳	58.3%
巣立ち工房	20名	57名	0名	57名	58.0歳	55.3%
こひつじ舎	50名	103名	2名	105名	49.6歳	39.8%
シンフォニー	40名	34名	0名	34名	32.4歳	5.8%
サザン	40名	19名	2名	21名	32.1歳	0%
合計	210名	352名	16名	365名		

32

グループホームなど新築物件9件の状況

	巣立ちホーム								
建築年	H10.6	H15.1	H16.2	H17.9	H18.3	H21.5	H22.11	H24.4	H26.11
居室数	6	8	6	5	13	8	7	9	7
家賃	53万円	58万円	52万円	42万円	102万円	62万円	55万円	69万円	53.6万円
一部屋の家賃	65,000	60,000	65,000	63,000	69,000	69,000	69,000	69,000	67,000
家主	以前、職親と民生委員の経験あり	地域の地主	地域の地主	元郵便局長 地域の地主	地元で事業をしている 元民生委員	地元で事業をしている。 地主。	地元で事業をしている。 地主。	地主 巣立ち風の家主	地域の地主 巣立ちホームの持ち主
建ててもらった経緯	以前、職親を依頼したことがある	第2の家主の親戚	利用者が建設中のアパートの不動産屋と交渉したことがきっかけ	東京都の用地買収の人を通しての情報	東京都の用地買収の人を通しての情報	古くからの理事長の知り合い。巣立ち会の支援者	兄妹が古くからの理事長の知り合い	理事長の古くからの知り合い	巣立ちホームの利用者や職員が評価され、たまたま土地を購入するので建ててくれると持ちかけられる

平成26年11月



恋人をつくらう！
クリスマスパーティー

恋人を
作ろう

She
loves you

クリスマス♡2023
★
パーティー

Love
me
do

2023/12/3(日)
13時~16時

参加費 男性 1,000円
女性 500円
(軽食・ドリンク付き)

武蔵野スイングホール
レインボーサロン
(武蔵境)

主催：恋人をつくらう！クリスマスパーティー実行委員会
事務局：社会福祉法人巣立ち会 巣立ち風 吉澤
連絡先：TEL/0422-34-2761 FAX/0422-39-7781

お申し込みいただいた
女性の方に
限定特典企画中

参加ご希望の方は事務局へ電話かFAX、又は Google フォーム 詳細はこのQRコード→



巢立ち会の子ども食堂







りに関する調査について

答があった

き取った

り実態調査の結果報告書

<講師>
澤井大和氏

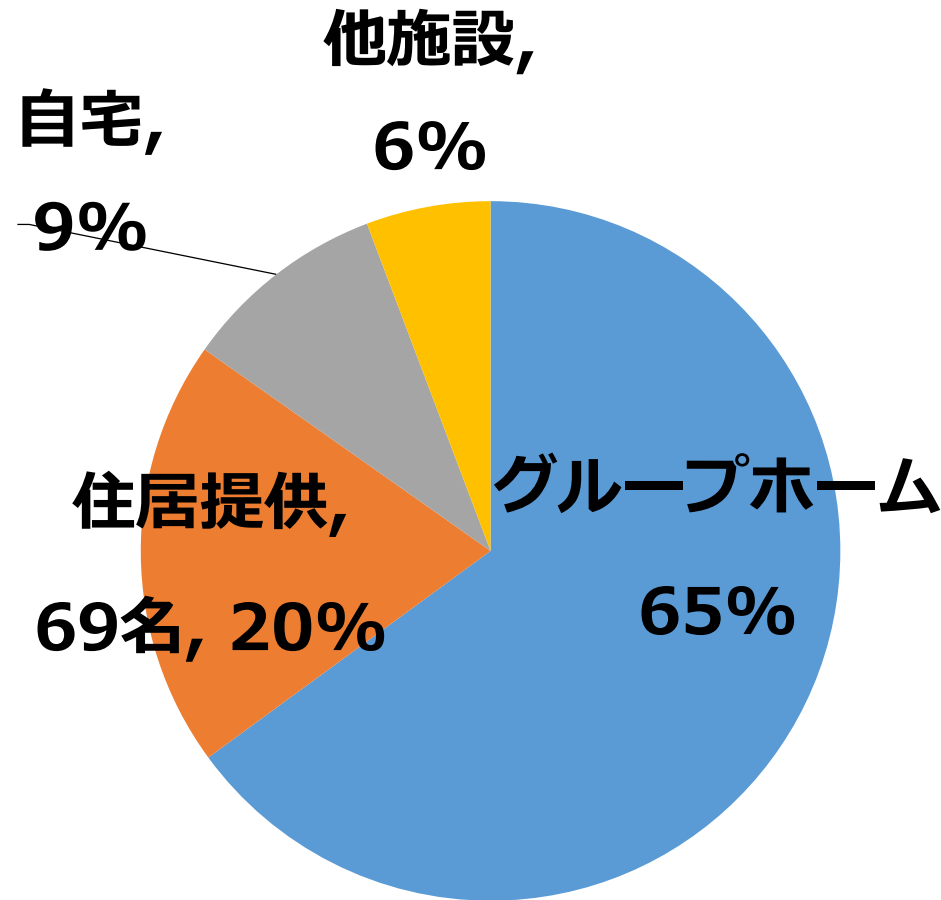
巣立ち会を利用して退院した

利用者**348名**についての分析

住居支援者の居住先

N=348

2023.03.31 現在

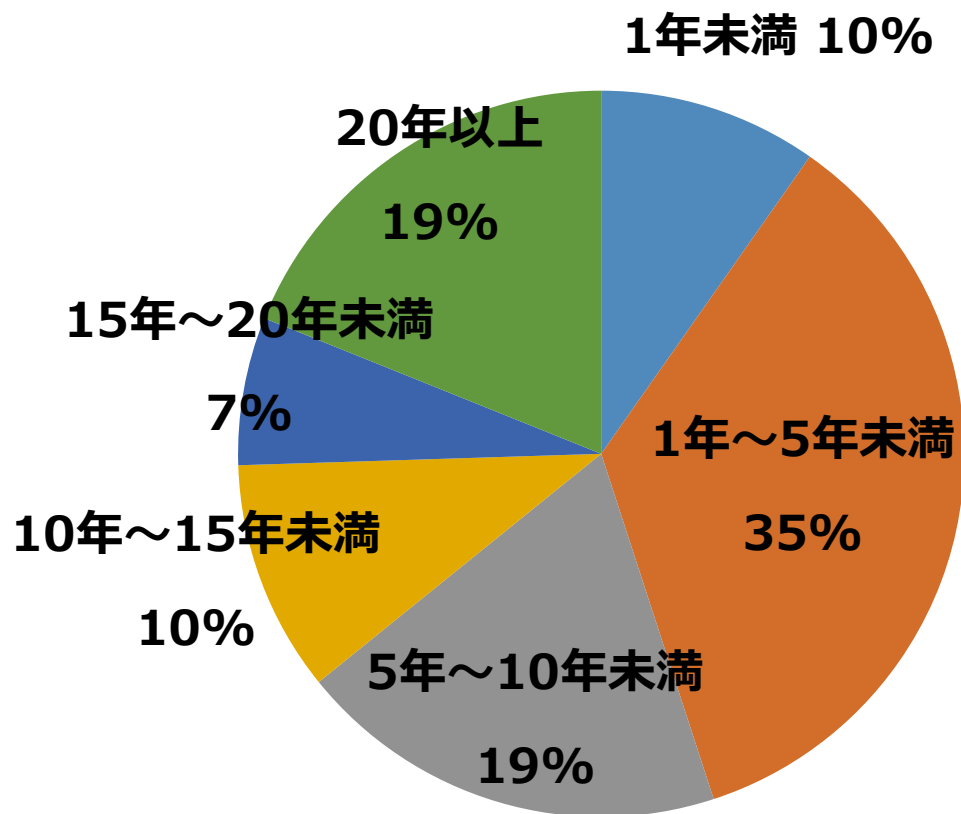


退院時住居	利用者数
グループホーム	226
住居提供	69
自宅	33
他施設	20
計	348

総入院期間

N=348

2023.03.31 現在

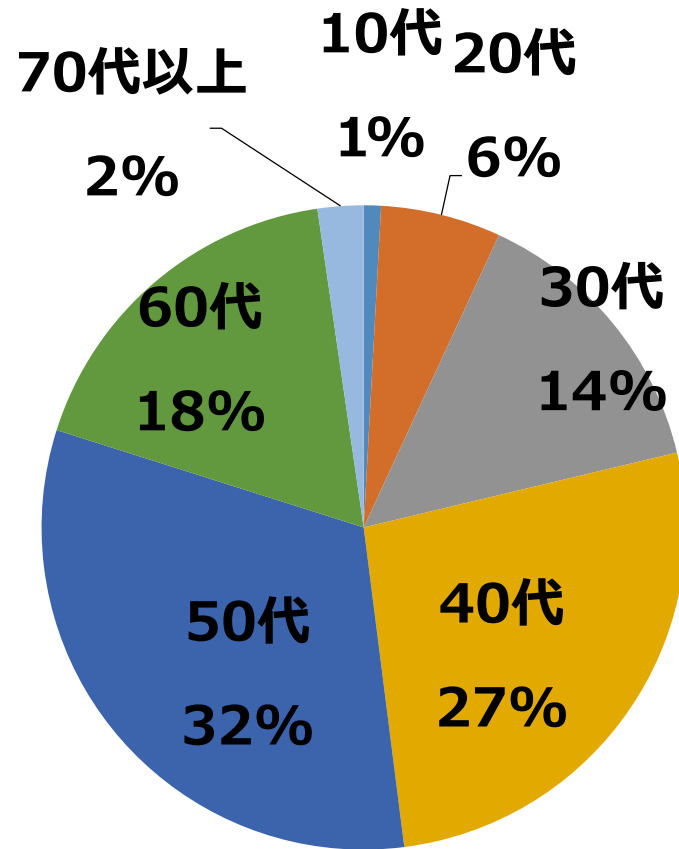


入院期間	利用者数
1年未満	34
1年～5年未満	123
5年～10年未満	66
10年～15年未満	36
15年～20年未満	23
20年以上	66
計	348

利用開始時の年齢層

N=348

2023.03.31 現在



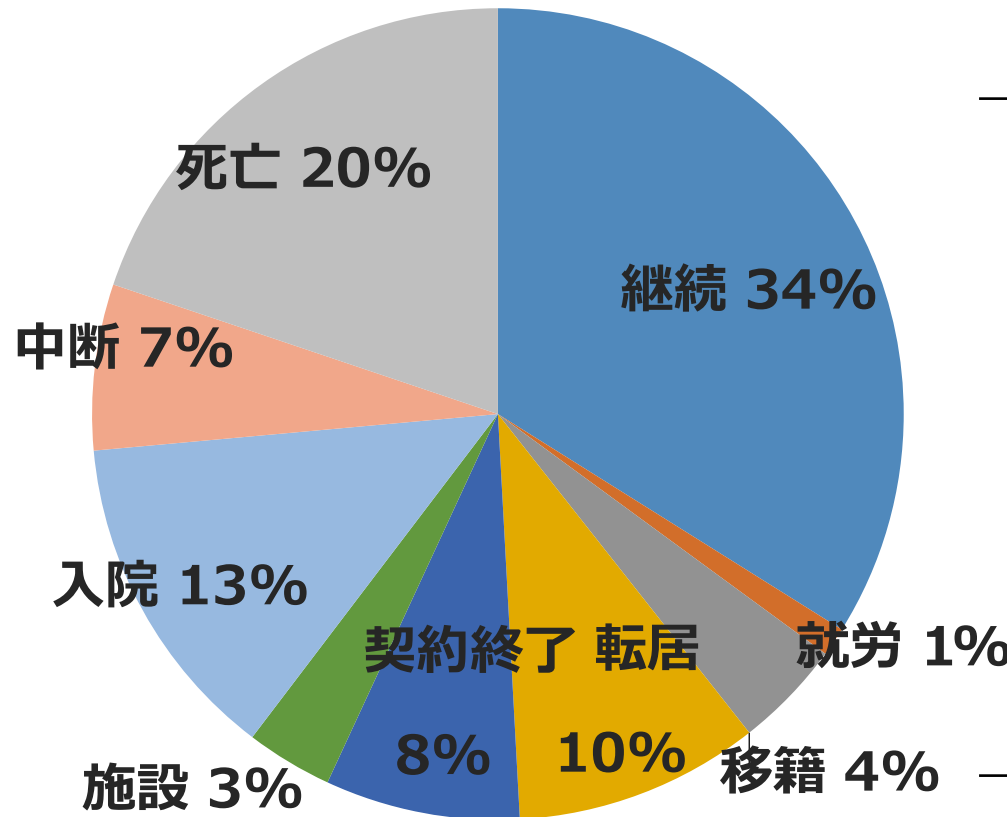
年齢層	利用者数
10代	3
20代	21
30代	50
40代	93
50代	111
60代	62
70代以上	8
計	348

対象者の現在の状況

N=348

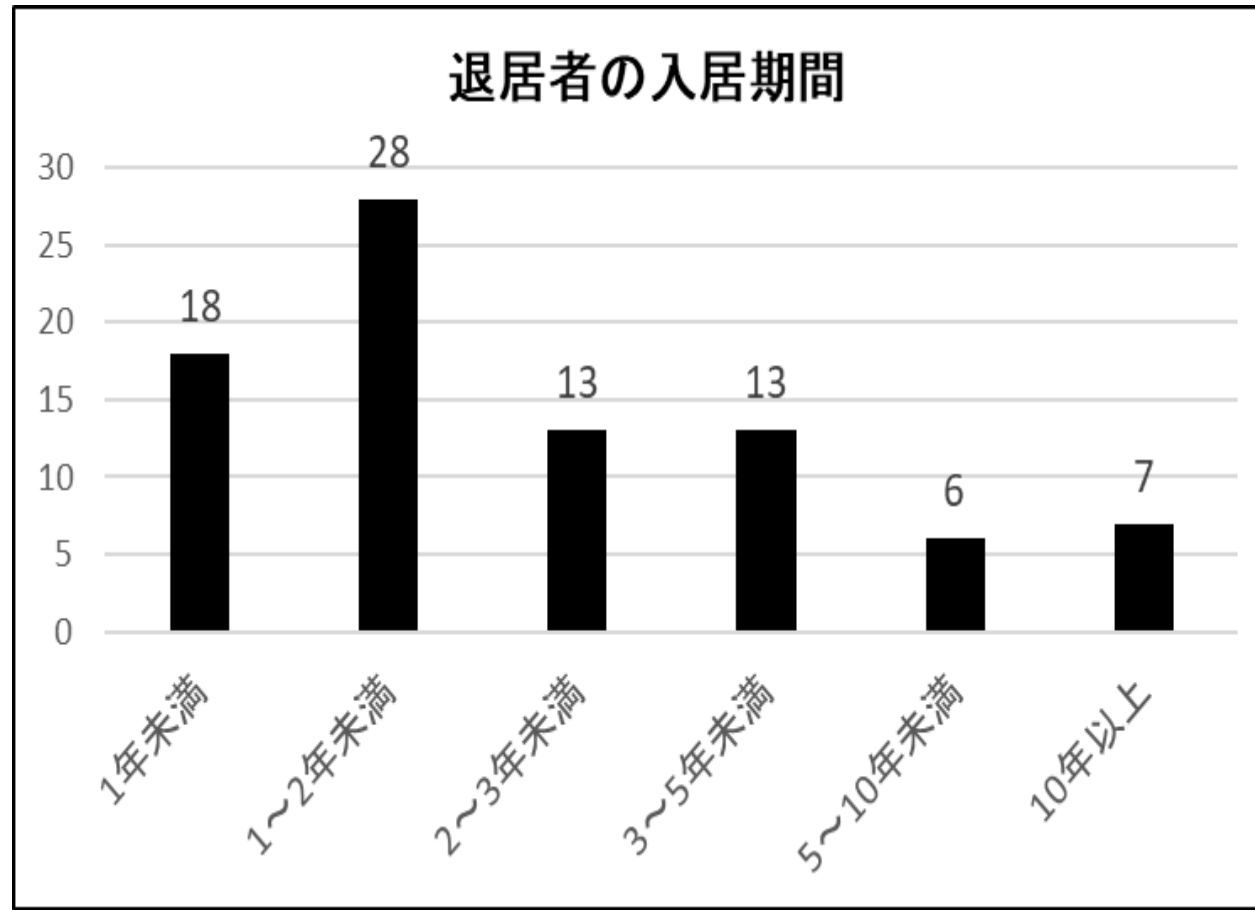
2023.03.31 現在

対象：退院支援対象者348名

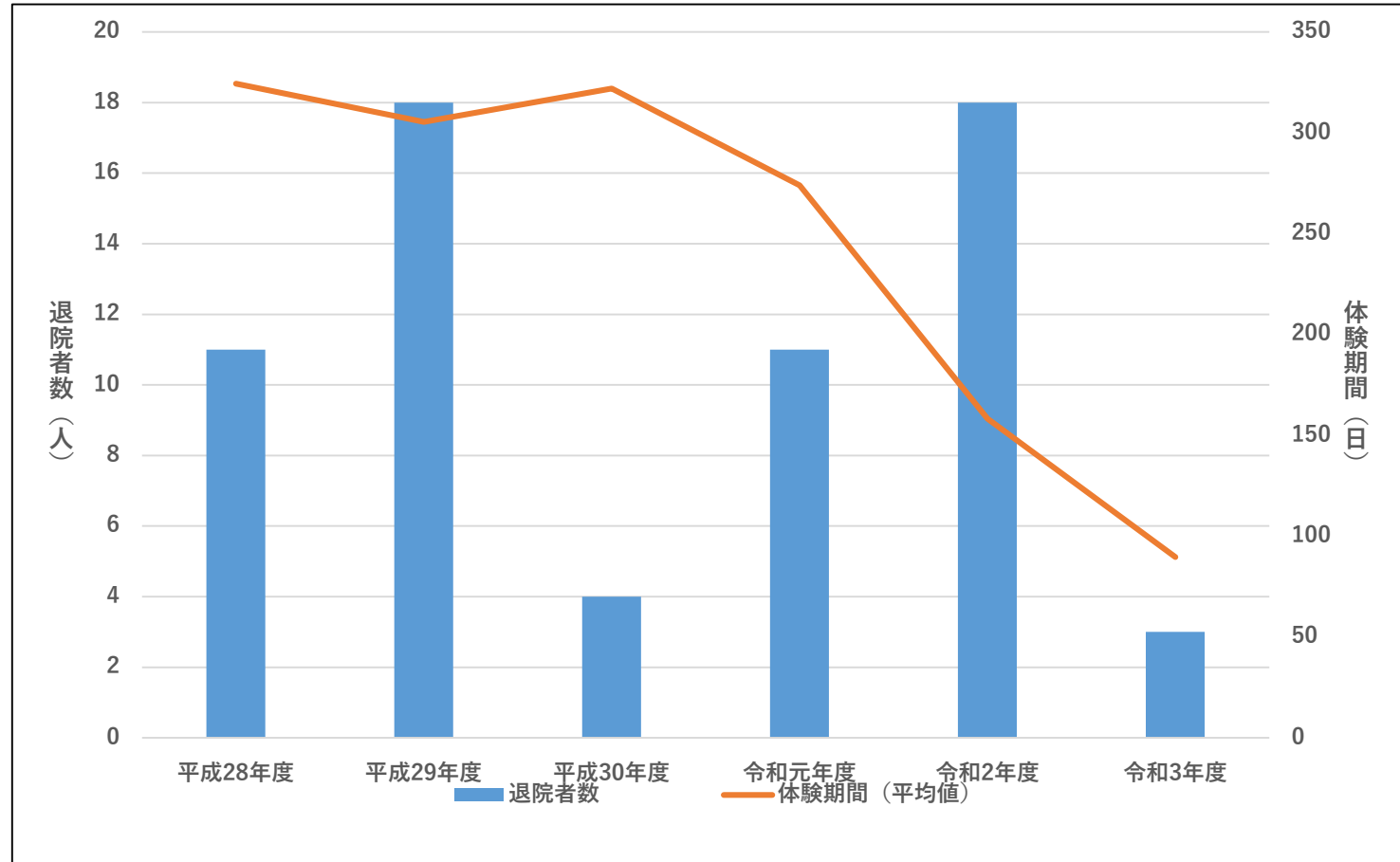


対象者 転帰別	対象者	
	退院支援者	全利用者
継続	115	412
就労	4	232
移籍	15	100
転居	34	64
契約終了	28	183
施設	12	18
入院	48	84
中断	23	146
死亡	69	103
合計	348	1,342

巣立ち会の入居者の入居期間



巣立ち会の退院支援の現状



退院者のうち、現在も
継続している利用者
114名についての分析

死亡者の平均寿命 (N=60)

男性 (N=45)

64.9歳 (2023年日本平均81.05歳)

* 2013年時点: 男性 (N=20) 59.8歳 (日本平均79.9歳)

女性 (N=15)

65.2歳 (2023年日本平均87.09歳)

* 2013年時点: 女性 (N=9) 60.2歳 (日本平均86.4歳)

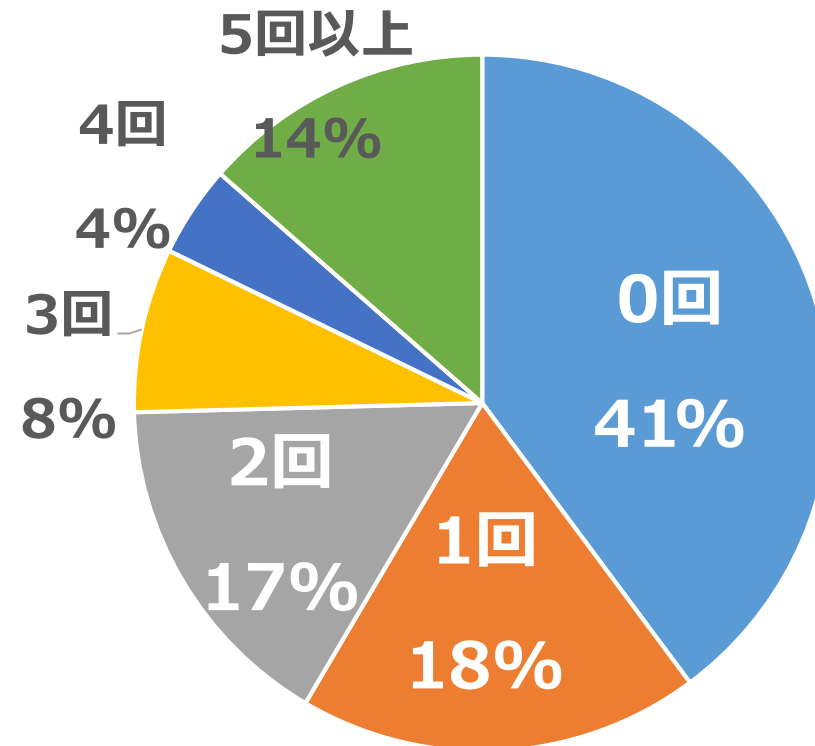
退院支援から継続利用114名

- 利用開始までの平均入院期間
3,582日（9年10ヶ月）
- 平均利用期間
4,119日（11年5ヶ月）
- 現在の平均年齢 57.1歳
 - 男性77名、女性37名
 - 統合失調症 94人(82%)

再入院回数

N=114

回数	人数	割合
0回	47	41%
1回	20	18%
2回	19	17%
3回	9	8%
4回	5	4%
5回	3	3%
6回	1	1%
7回	3	3%
8回	0	0%
9回	4	4%
10回以上	3	3%
計	114	



再入院期間の平均

(延べ回数 250回)

1回あたり 101日 (3ヶ月強)

強制入院の割合

- 措置入院 1回
- 医療保護入院 20回(12名)
(1回8名 2回2名 3回1名 5回1名)

回数比(延べ回数250回) **8.4%**

人数比(対象人数114名) **11.4%**

巢立ち会の地域移行支援

巢立ち会の活動の原点

- **利用者のニーズ**に手が届くように
- **地域で生活**をしてこそ人足りえる
 - 施設処遇は、本来の人間の生きる前提ではないと
今でも信じている

これらの発想が活動の原点

退院促進支援の流れ



事例 本人が退院に拒否的な場合

事例 家族の反対が強い場合

事例 後見人が賛成しない場合

事例 病院と意見が異なる場合

事例 行政と意見が異なる場合

精神医療審査会

- 精神医療審査会が患者の味方であるはずだが・・・
- 件数が非常に少ない
- 退院の件数も少ない
→形骸化していると思われる
- H30年東京の新規入院患者数
37,082件
(内医療保護入院19,140件)

退院請求審査		件数
退院を認める		2
退院は認められない		110
内訳	現在の入院形態継続	88
	他の入院形態へ移行して継続	22
保留／再審査		1
取り下げ等		98
計		211

30年間で起こったトラブル

- 火事 2回 小火 2回
 - 1回目は煙草の火の不始末
 - 2回目は幻覚妄想状態での自殺未遂
 - 3回目も煙草の火の不始末
 - 4回目はストーブから出火
- 自殺 4例
 - グループホームからの飛び降り 2名
 - 電車の飛び込み 2名
- 突然死 18例+α

最近の病院へのアプローチ

- 幾つかの病院には定期的に訪問（現在3か所）
- 新たに1か所検討中
- 当所は近隣病院だけだったが、最近では多摩、八王子等遠方の病院にも病院が了承してくれれば訪問し、定期的に患者さんを事業所に体験通所させ、退院を目指している。
- 精神科地域移行実施加算を取りたい病院に呼びかけ退院者を出す協力をする。
- 退院を希望する患者の支援をした結果、病院への出入りを禁止されるような例もある。（事例1・2・3）

退院支援を長く行ってあらためて思うこと

- 1 まだまだ退院できる人が東京でさえ、大勢病院に入院している
- 2 かなりが高齢になってきている →退院は急務な課題
- 3 リハビリテーションは地域で行なう→生活の訓練は病院の中で行なえない
- 4 人の人生は管理できない
利用者には生きる力を持っている
もっと彼らの力に注目を
- 5 利用者個人を変えることを期待するより、利用者を受け入れられる環境作りが重要
- 6 病院職員の意識変化の必要
- 7 地域の福祉関係者がもっと力をつけること
- 8 身体機能の低下した人も受け入れられる事業所が必要 企業系グループ
ホームへの期待
- 9 重要なのは退院後の支援

今後の課題 解決していきたいこと

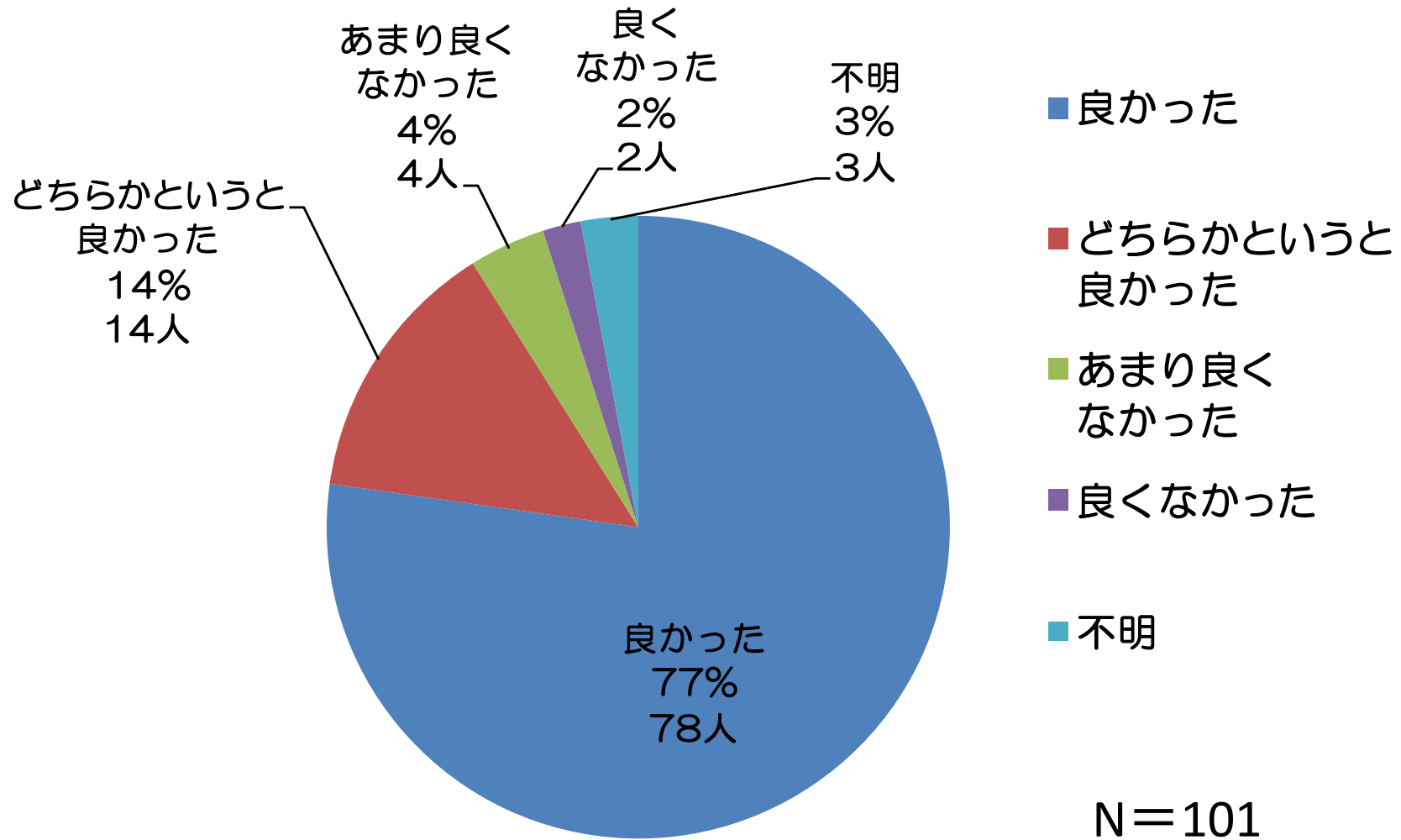
- 精神障害者の区分の出にくさ⇒厚労省への働きかけ
- 短期間でGHを出て自立していく人への報酬としての評価
⇒東京都への働きかけ
- 重症者を見ていくGHへの報酬評価⇒東京都への働きかけ
- 来年度の国の報酬改定への疑問
- 都内でも福祉サービスにばらつきがあり、なるべくその格差を失くすこと
- 座して死を待っている病院と経営について話し合う機会を作りたい

退院後の生活と住まい についてのアンケート

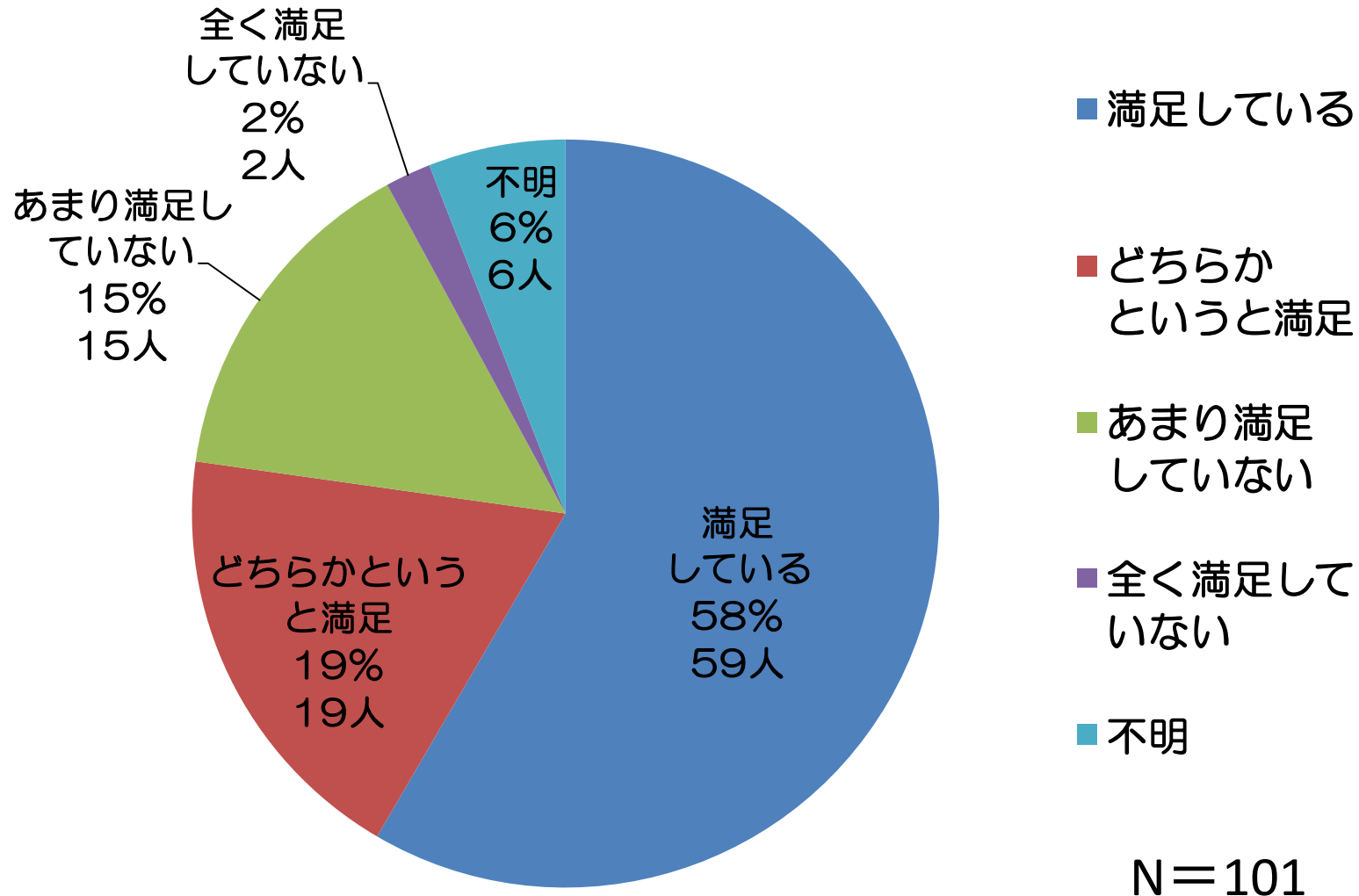
対象者

- 巣立ち会が退院支援をし、現在地域で生活している人101名を対象にアンケートを行う。

退院した感想



地域生活の満足度



退院してよかった理由

- 自由がある。:91人
- 好きなものを食べられる。:75人
- 好きな時にお風呂やトイレに入れる。:74人
- 工賃や給料がもらえるようになった。:70人
- プライバシーがある。:69人
- 好きなテレビが見られる。:69人
- 好きな時に好きなところへ外出できる。:68人
- 病院のルールにしばられなくてよくなった。:65人
- 自分のことは自分で決められる。:64人
- 自由に使えるお金が増えた。:56人
- 良く眠れるようになった。:51人
- 仕事ができるようになった。:49人
- 友人、助け合える仲間ができた。:48人
- 生活にはりあいがある。:48人
- 病気や症状がよくなった。:46人
- 人として成長できていると感じる。:45人
- わずらわしい人間関係から解放された。:39人
- 将来に希望を持てるようになった。:37人
- 他人の見る目や態度が変わった。:33人
- 家族との関係がよくなった。:31人

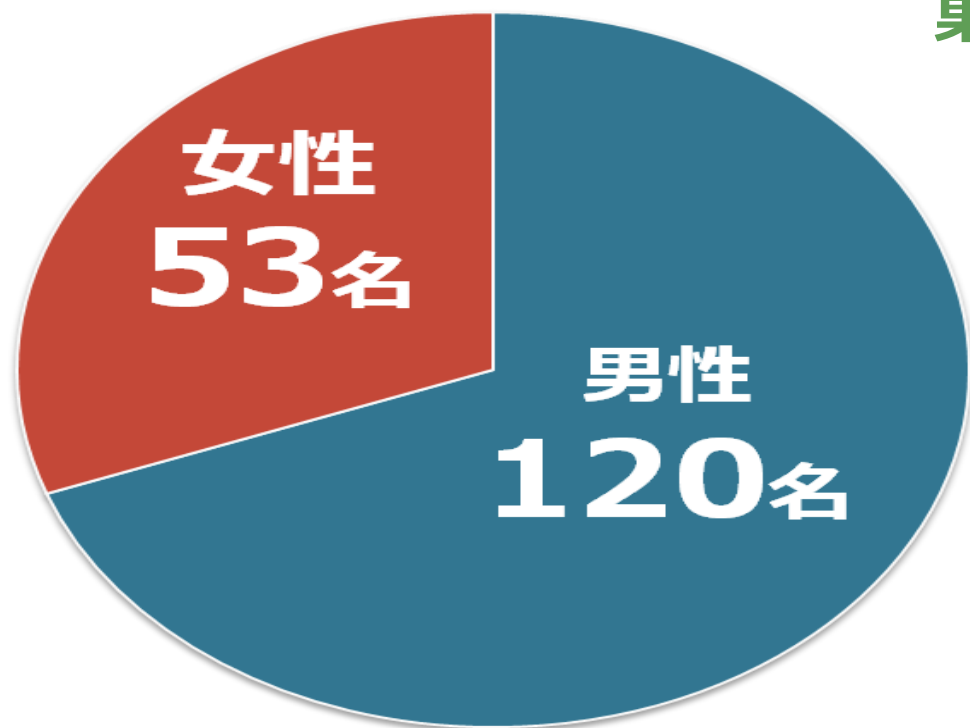
調査の概要

- ① 巣立ち会利用者のメタボリックシンドローム発症状況を調査
⇒健康診断の結果、ケース記録を調査
- ② 巣立ち会利用者の健康意識と生活習慣を調査
⇒利用者を対象としたアンケートを実施

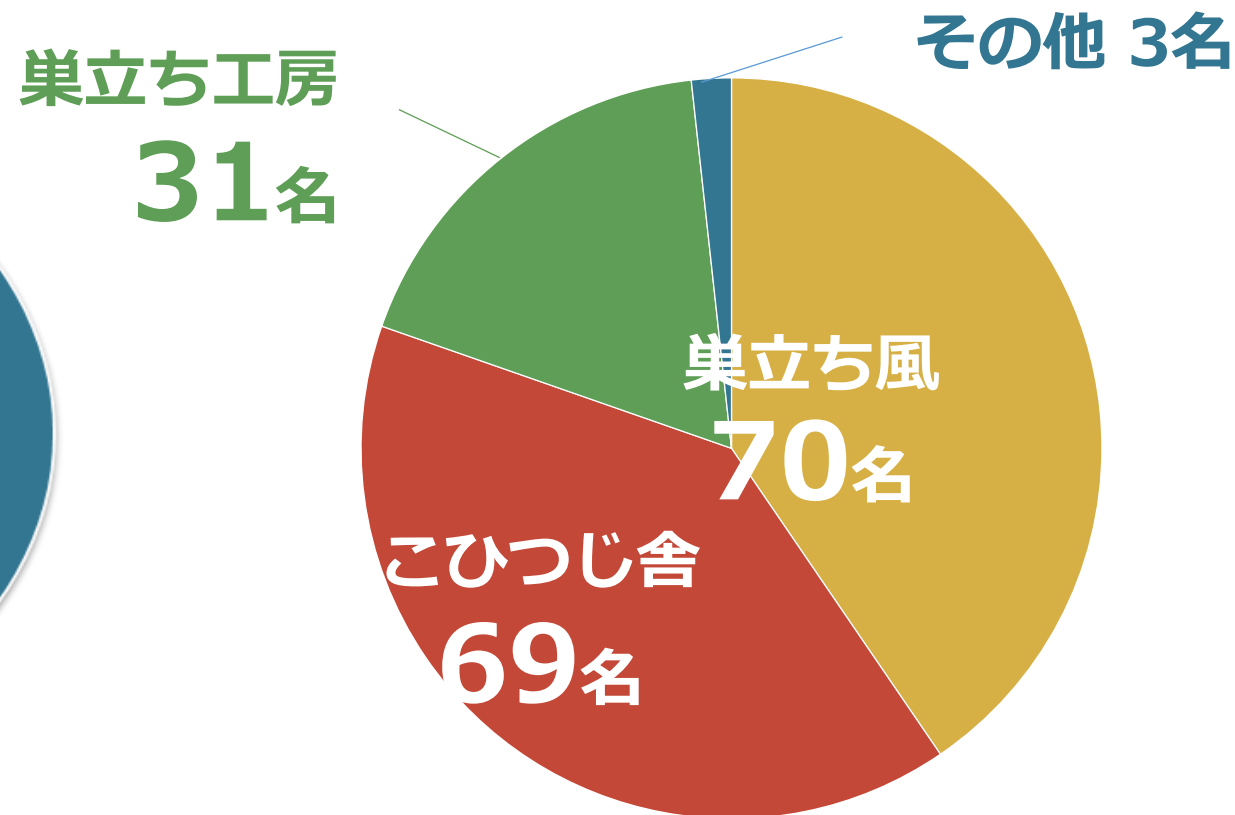
回答者の内訳

- 回答者：173名

性別

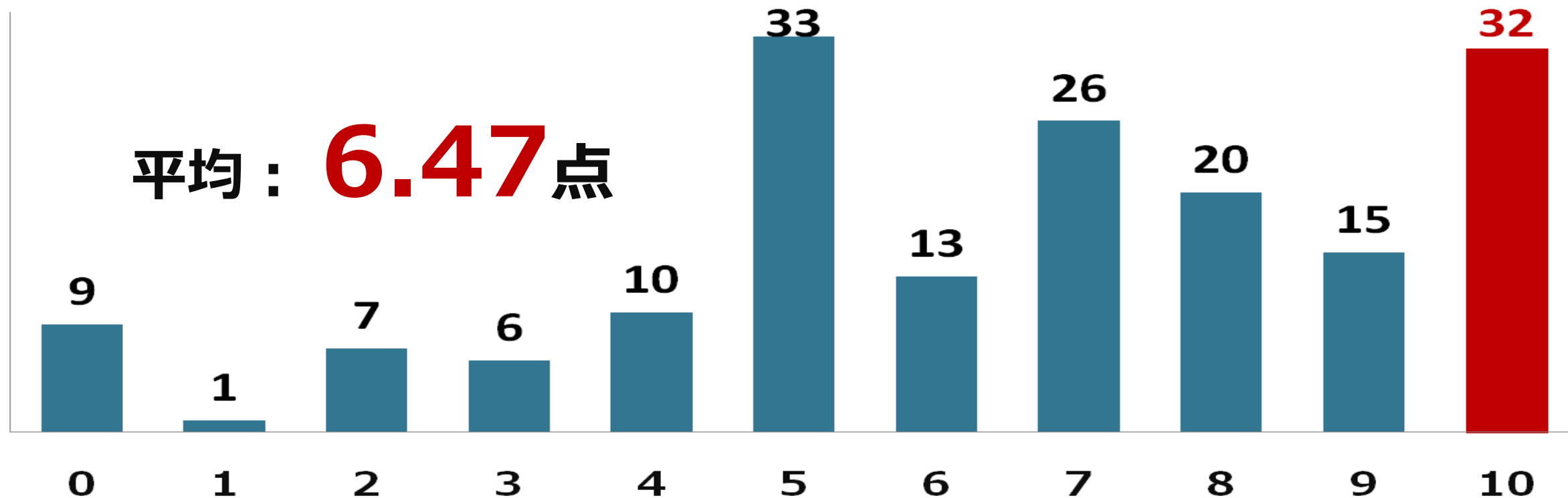


通所先



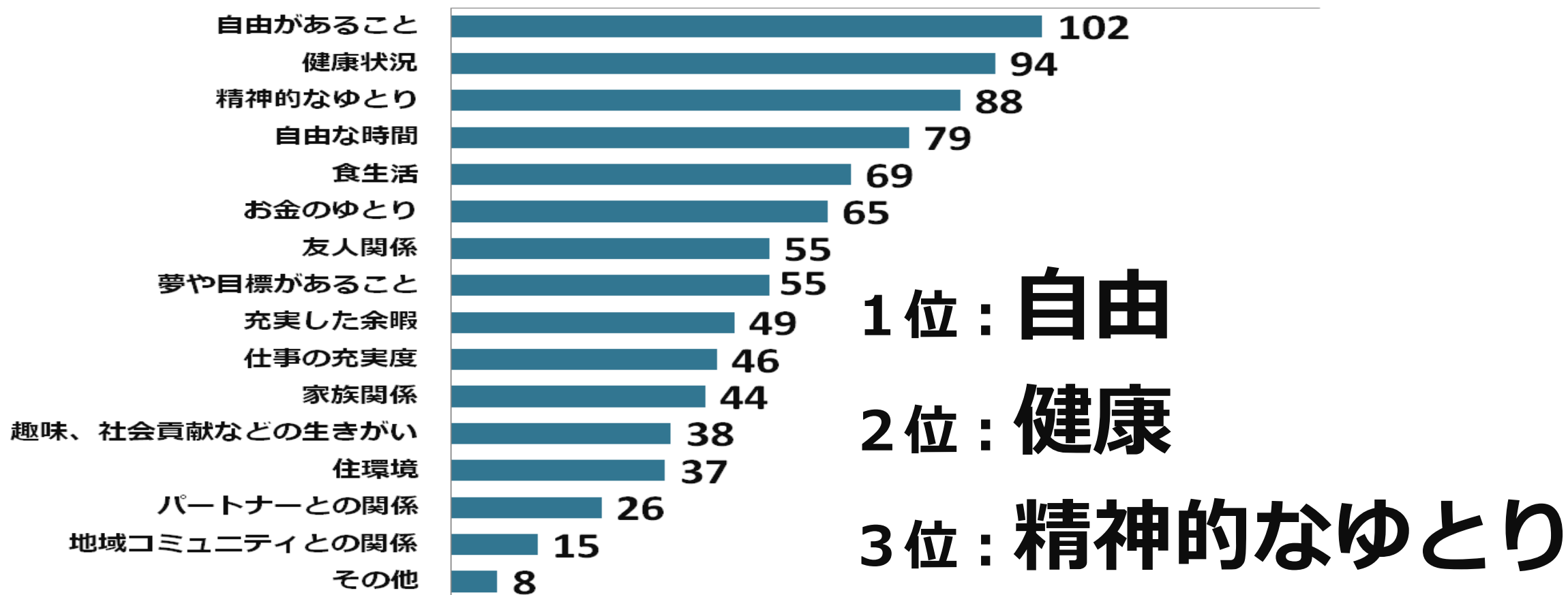
どれくらい幸せですか？

Q：現在、あなたはどの程度幸せですか。「とても幸せ」を10点、「とても不幸」を0点とすると、何点くらいになると思いますか？



幸せの条件

Q：前問で、どれくらい幸せかを判断する際に重視したことはなんですか。（複数回答）



退院支援のリレートーク映像
グループホーム・巣立ち風映像

**退院支援について、
私たちは何をすべきか？**